

# 奈良県感染症発生動向調査事業報告



# 平成 30 年 内科・小児科感染症の概要

## 1. 平成 30 年の流行状況（定点当り）

### 〈全国〉

今年流行した疾病はインフルエンザ（定点当り 385.12）で、平成 21 年（645.36）に次いで、過去 10 年間で 2 番目に多かった。昨年より報告数の多かった疾病は伝染性紅斑、ヘルパンギーナであった。一方、著しく少なかった疾病は水痘、突発性発疹、流行性耳下腺炎で、いずれも過去 10 年間で最少であった。（なお、百日咳は今年から全数報告となった。）

### 〈奈良県〉

県で流行した疾病はインフルエンザ、A 群溶連菌咽頭炎で、共に過去 10 年間で 2 番目に多かった。一方、少なかった疾病は水痘、流行性耳下腺炎で、共に過去 10 年間で最少であった。全国より多かった疾病は RS ウイルス感染症で、それ以外の疾病は全国より少なかった。

## 2. 近隣府県と奈良県の関連状況（定点当り）

奈良県が近隣府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県）よりも多かった疾病はなかったが、少なかった疾患はインフルエンザで、全国から見ると少ない方から 6 番目であった。手足口病は滋賀県に次いで、伝染性紅斑は大阪府に次いで多かった。

## 3. 地区別（保健所別）での報告数（定点当り）の状況（県平均との比較）

地区別で県平均より報告数が多い疾病を見てみると、奈良市保健所は水痘、突発性発疹、流行性耳下腺炎、郡山保健所では水痘、手足口病、流行性耳下腺炎であった。中和保健所（東）では A 群溶連菌咽頭炎と流行性耳下腺炎を除く全ての疾病が、中和保健所（西）では水痘とヘルパンギーナを除くすべての疾病が、県平均より報告が多かった。また、吉野保健所ではヘルパンギーナが県平均より報告が多かったが、内吉野保健所では全ての疾病が県平均より報告が少なかった。

## 4. 月別の発生状況（定点当り）

各疾病の月別流行状況を見てみると、インフルエンザは 1～2 月に、RS ウイルス感染症は 8～10 月に、咽頭結膜熱は 5～6 月と 11～12 月に、A 群溶連菌咽頭炎は 5～6 月と 11

11～12月に、感染性胃腸炎は5月に、手足口病は7月～11月に、ヘルパンギーナは7～8月にかけて流行した。特徴的であったのは、RSウイルス感染症は過去10年平均では8月から増加し始めて12月にピークとなっているが、H30は9月がピークで、そこから12月にかけて漸減傾向であった。他の疾患においては顕著な流行は見られなかったが、水痘は5月に、伝染性紅斑は5月に、突発性発疹は5月に、流行性耳下腺炎は7月に最も報告が多かった。

## 5. 世代別（1歳平均）での報告数（実数）の状況

インフルエンザは幼児期 914.8 件、学童期 788.8 件と多く、RSウイルス感染症は乳児期 479.0 件、幼児期 227.8 件、咽頭結膜熱は幼児期 114.4 件、乳児期 47.0 件、A群溶連菌咽頭炎は幼児期 313.8 件、学童期 144.3 件、感染性胃腸炎は幼児期 908.8 件、乳児期 579.0 件、水痘は幼児期 39.4 件、手足口病は幼児期 200.0 件、乳児期 107.0 件、伝染性紅斑は幼児期 34.2 件、突発性発疹は乳児期 253.0 件、幼児期 96.8 件、ヘルパンギーナは幼児期 153.8 件、乳児期 82.0 件、流行性耳下腺炎は幼児期 13.0 件、学童期 6.4 件であった。

柳生 善彦 記

インフルエンザ定点分  
(小児科定点・内科定点)

# 1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

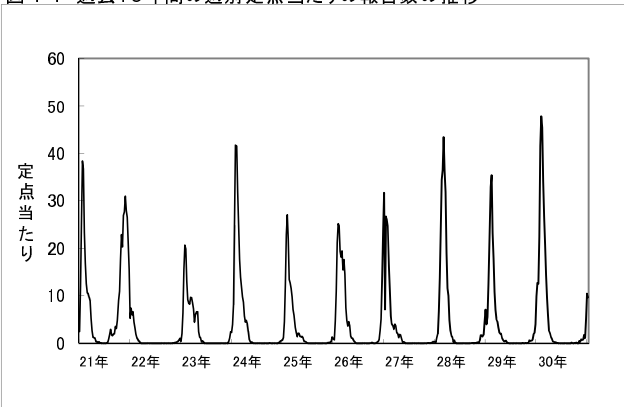


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

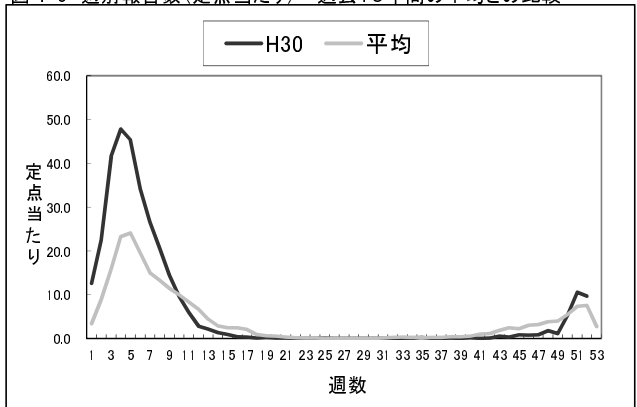


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

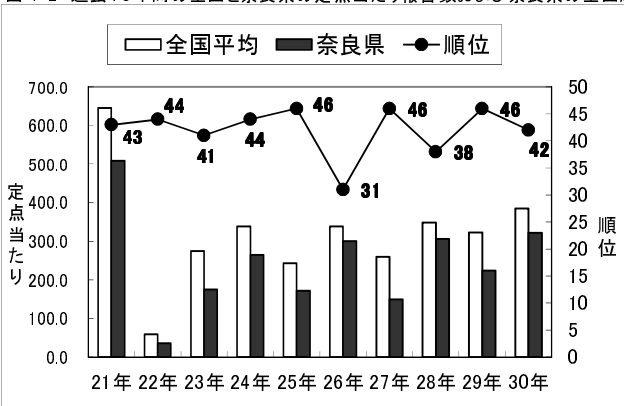


図 1-6 年齢別報告数(実数)

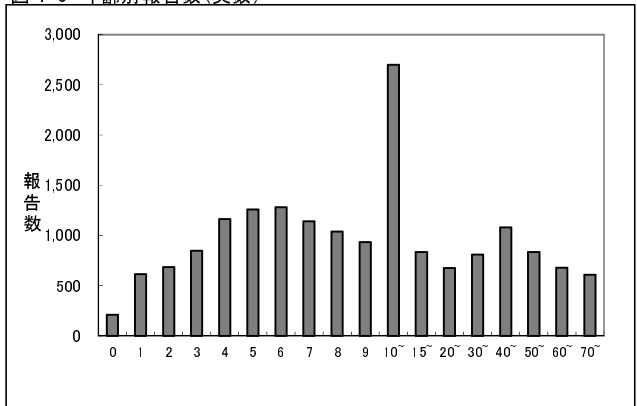
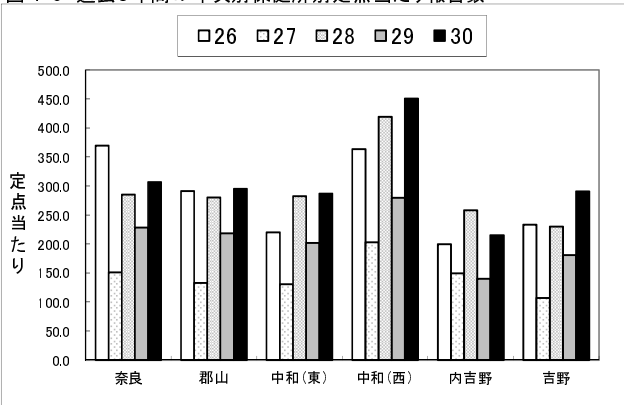


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



## コメント

・奈良県の全報告数17411例、定点当たりの報告数は321.82で昨年より増加した。

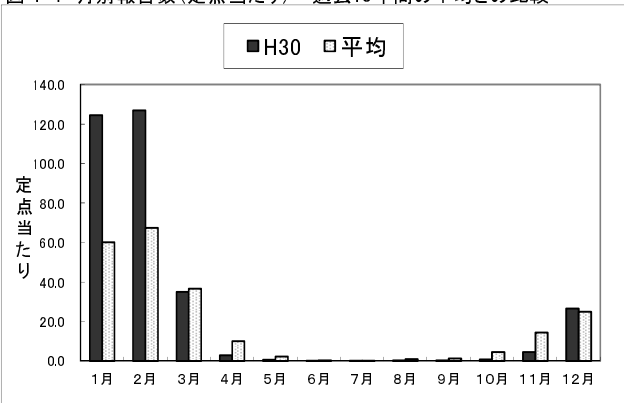
・保健所別定点当たりの報告数は、昨年と同じく、中和(西)保健所が450.70と最多であり、次いで奈良市保健所の306.86であった。

・月別定点当たりの報告数では、昨年同様、11月から流行の兆しが見られ、2月が126.93と最多となり、4月に2.89と終息した。

・2018年のインフルエンザは、例年と異なり、1月から3月にかけてB型(山形系統)が主流となり、32株検出したが、AH1pdm09、AH3(香港型)も検出されていた。

(新川 邦浩 記)

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 小兒科定点分

## 2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

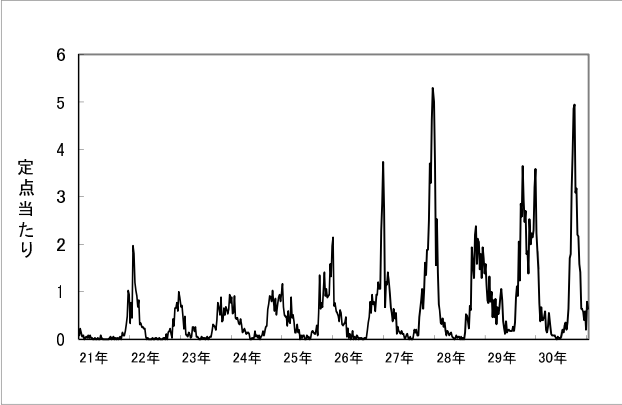


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

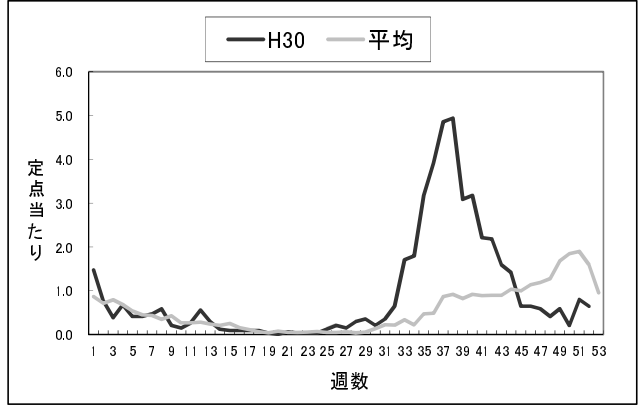


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

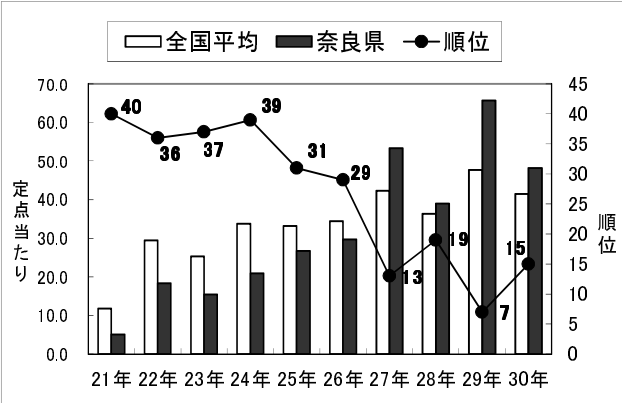


図 2-6 年齢別報告数(実数)

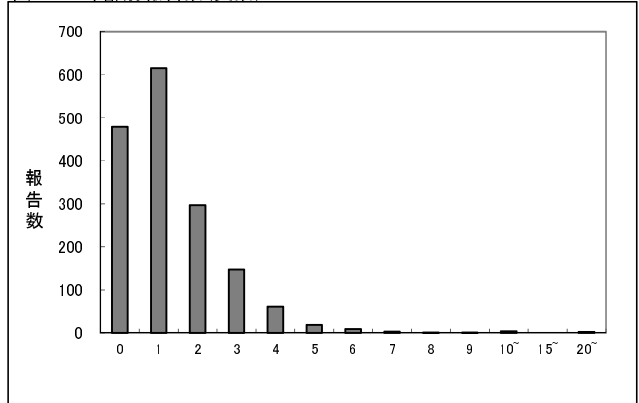
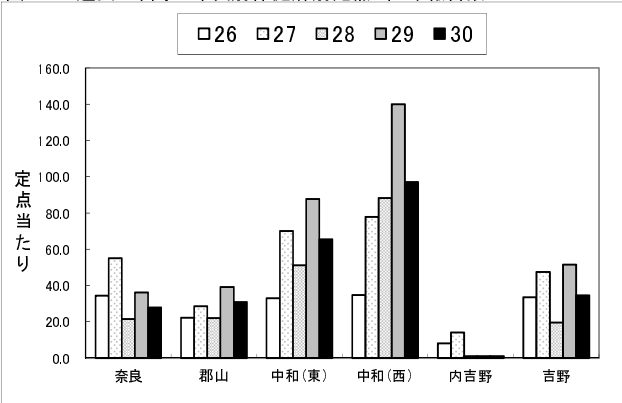


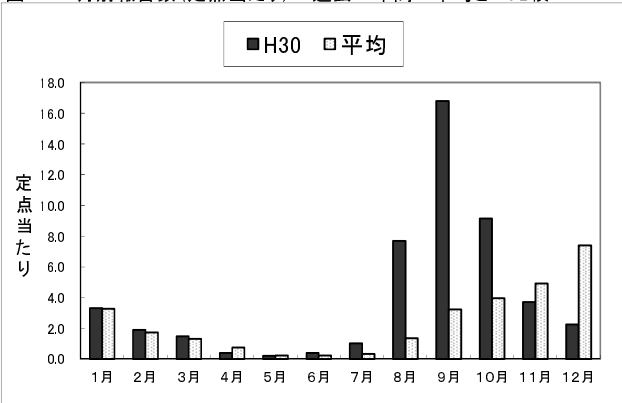
図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

定点あたりの報告数は去年より減少し、全国7位から15位となった。保健所別では、昨年と同じく最多が中和(西)保健所の97.00、次いで中和(東)保健所の65.43であった。  
 月別報告数では7月から増加し始め、9月にピークとなり、以降漸減している。RSウイルスは、ここ数年検出開始時期が早まっており、2018年は7月から検出があり、12月までに12株検出した。  
 年齢別では未就学児、特に0歳、1歳が特に多かった。  
 (榊原 葉月 記)

図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較





### 3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

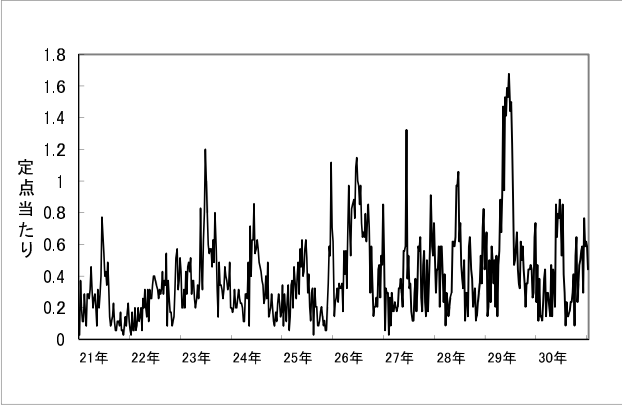


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

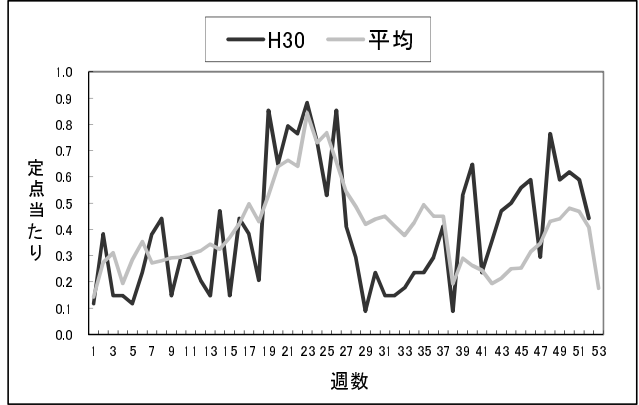


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

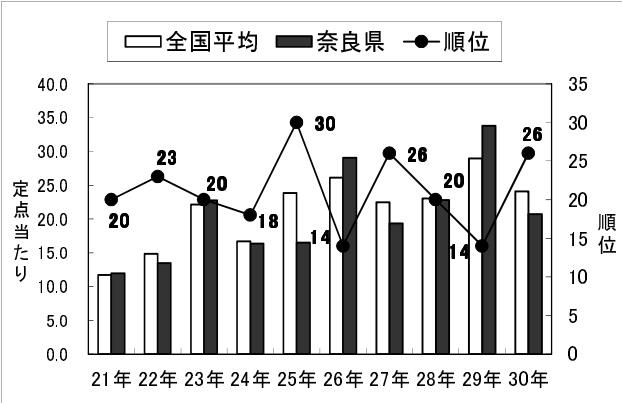


図 3-6 年齢別報告数(実数)

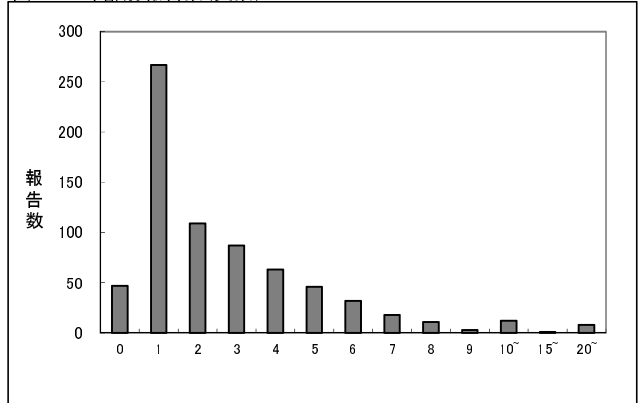


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

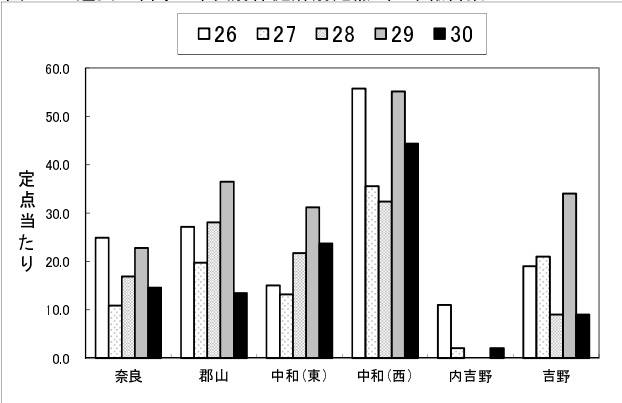
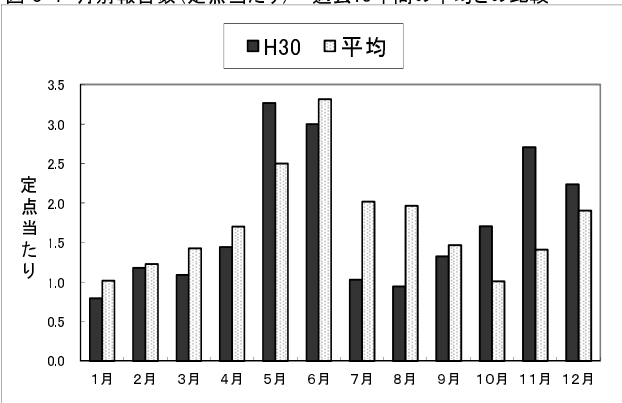


図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

定点あたりの報告数は20.70で全国26位であった。ここ10年は20位前後で推移している。  
 保健所別では中和(西)44.33、ついで中和(東)23.71の順であった。  
 月別報告数では5月6月にピークを認め、つぎに11月12月にピークを認めている。  
 咽頭結膜熱患者からの検体搬入は4例のみであり、うち1例からアデノウイルス2型を検出した。  
 年齢別では0歳児は比較的少なく、1歳児が最も多く、以降漸減しているが、学童や成人にも認められる。

(榊原 葉月 記)

#### 4.A 群溶連菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

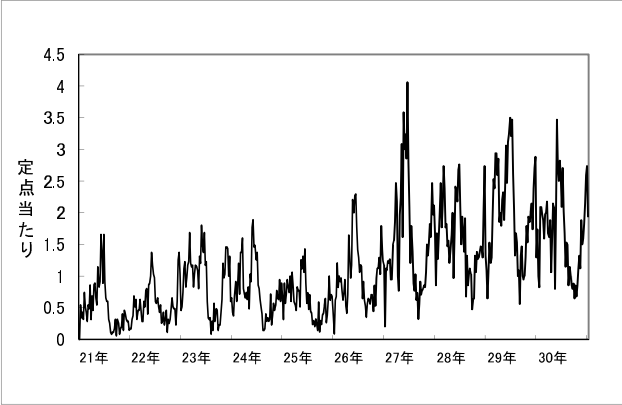


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

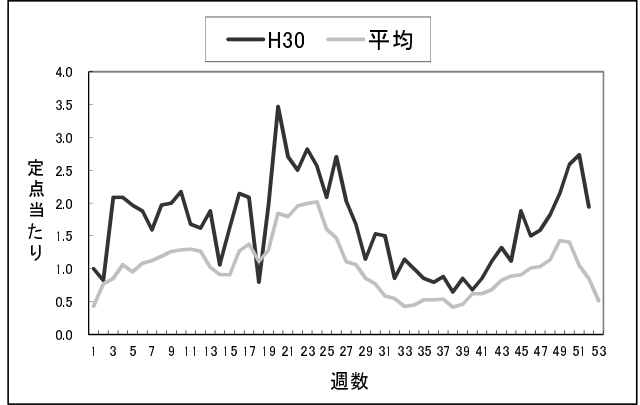


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

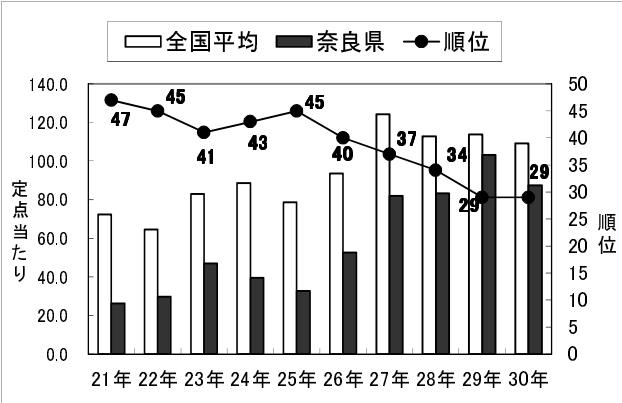


図 4-6 年齢別報告数(実数)

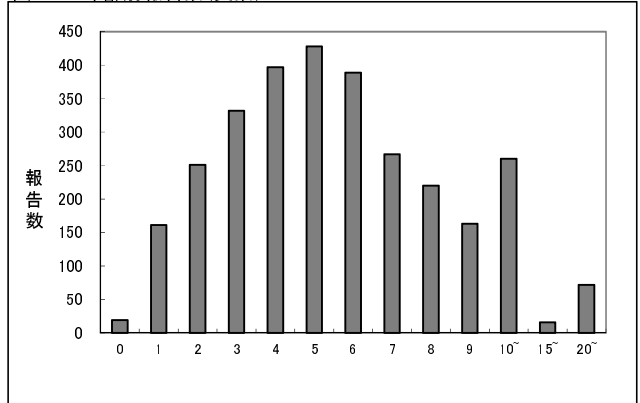


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

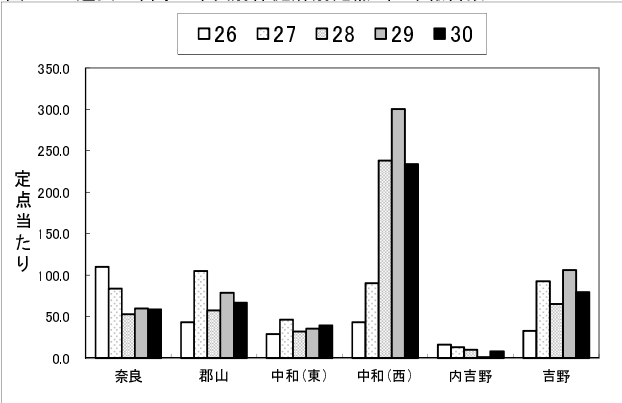
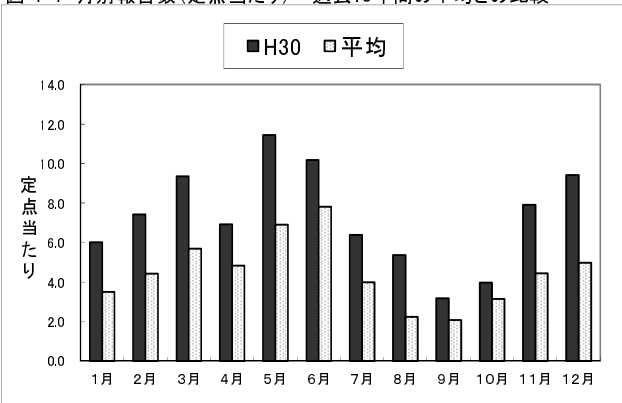


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



#### コメント

平成30年における全報告数は2,975例、定点あたり87.50で、急増した昨年度より少なく、平成28年(83.32)に近いレベルまで減少した。例年通り全国平均(113.63)よりは少ない。

過去10年間の定点あたり報告数を見ると、27～28年と同程度であるが、全国順位は平成29年と同じ29位である。

保健所別定点あたりの報告数では、例年通り中和(西)で報告数が多く(234.0)、次に吉野(79.50)、郡山(66.78)、奈良市(58.67)、中和(東)(39.29)、内吉野(8.00)で中和(東)、内吉野以外は昨年より減少した。

月別定点あたり報告数は、昨年同様、過去10年間の平均よりどの月も報告数が多い。(昨年の急増により過去10年間の平均も定点あたり0.3～1.2増加)。5月(11.44)、6月(10.18)がピークで、3月(9.35)、12月(9.41)に小ピークがある。初夏に大ピーク、春先と初冬に小ピークがあるのは例年通りである。

週別では、第19～27週、第48～51週の報告数は2.00を上回ったものの、春先は第3～13週、第16～17週にかけ1.50以上で推移し、ピークははっきりしない。

年齢別の実報告数を見ると5歳(428例)をピークにほぼ一峰性に分布し、0歳～9歳までの年代で2,627例が報告され全体の88.3%を占めていた。

小児科定点の疾患別で見ると、幼児期・学童期では感染性胃腸炎に次ぎ、依然として罹患数は多い。  
(水野 文子 記)

## 5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

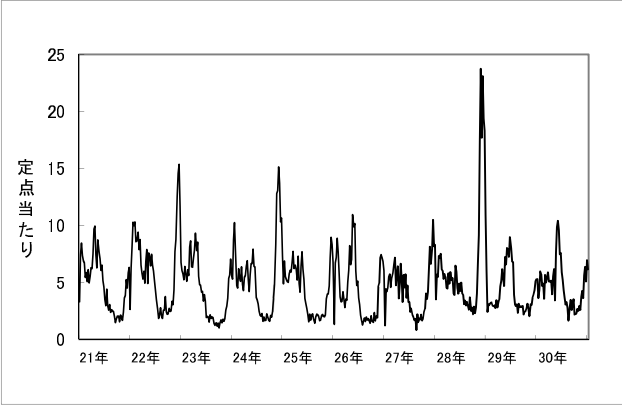


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

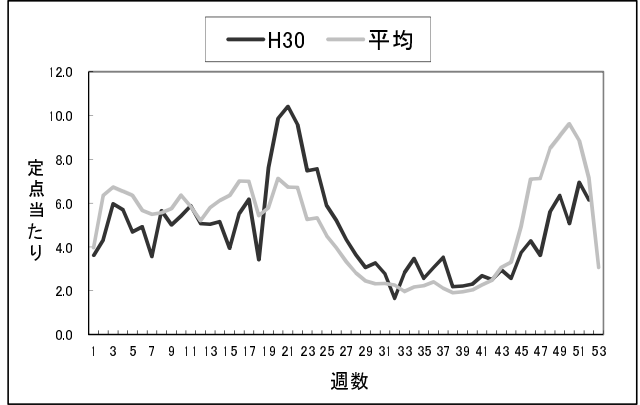


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

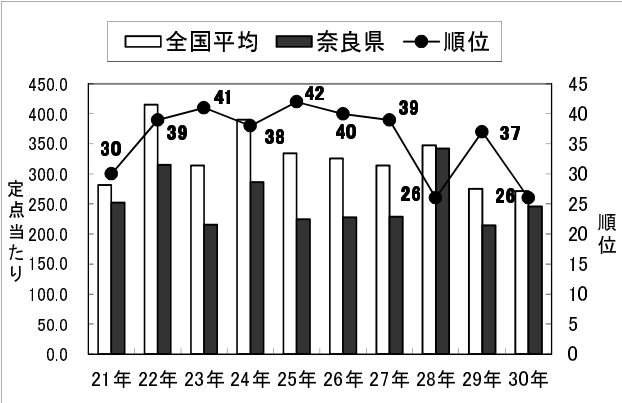


図 5-6 年齢別報告数(実数)

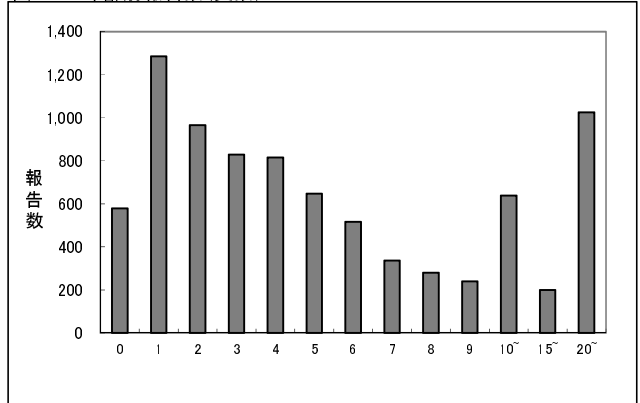


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

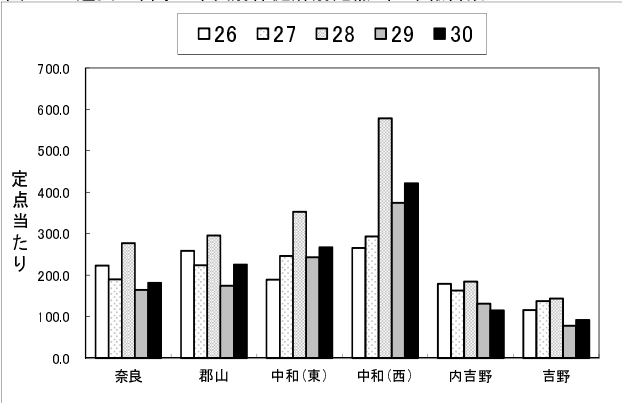
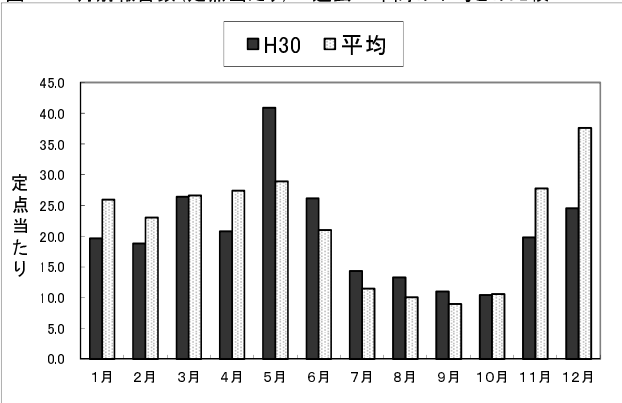


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は8,358例、定点あたり報告数は245.82で急増した28年よりは少ないが29年より増加した。過去10年間の全国平均よりは少ないが、平均(269.49)に近づく増加で、順位は28年と同様26位で、29年(37位)より上がっている。

保健所別の定点あたり報告数は、昨年同様、多い方から、中和(西)(421.33)、中和(東)(267.29)、郡山(225.44)、奈良市(181.33)、内吉野(115.00)、吉野(91.50)の順で、内吉野以外は29年より上回った。

月別定点あたり報告数を見ると、5月がピーク(40.88)で過去10年間の平均を大きく上回った。冬季(11月～2月)は過去10年間の平均より少ないが、初冬から春先まで一定数の報告が続いた。

週別定点あたり報告数は、30年は第19～24週にピークが見られ、冬から初夏は定点あたり5.0前後の報告が続いている。第48週から52週にかけて小ピークが見られる。

年齢別報告数は、例年と同様、1歳(1,286例)が最多、0歳(579)、2歳(965)、3歳(829)、4歳(816)、5歳(648)と乳幼児期で全体の61.29%を占めている。20～29歳成人の報告数が例年よりやや多い。小児科定点の疾患の中では、乳児期から幼児期(1～5歳)、学童期(6～14歳)、思春期(15～19歳)、20～29歳の成人期に至るまですべての年代で報告数が最多である。

(水野 文子 記)

## 6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

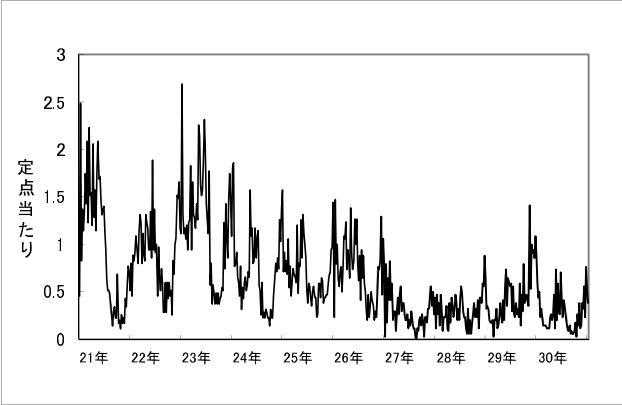


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

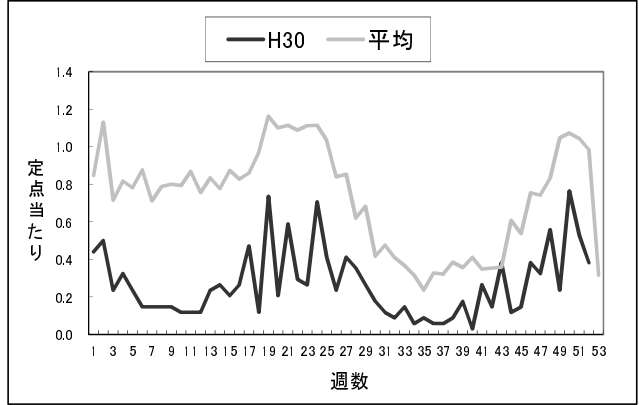


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

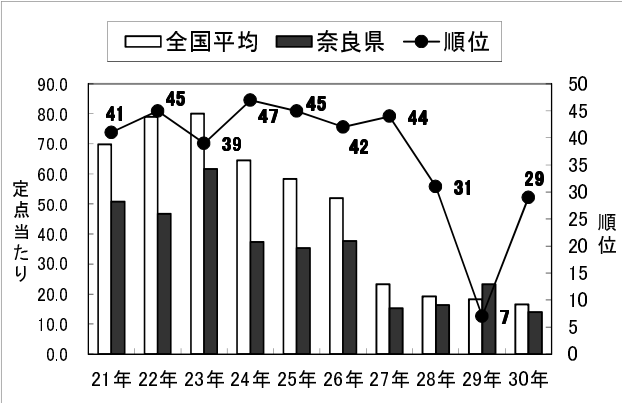


図 6-6 年齢別報告数(実数)

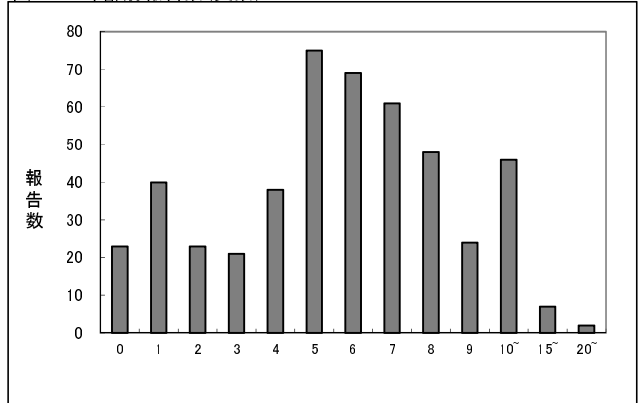


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

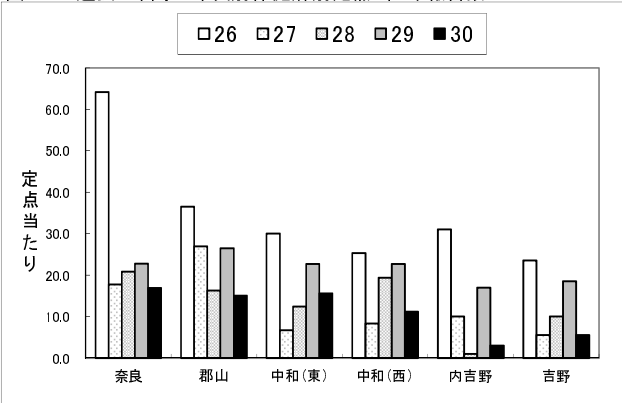
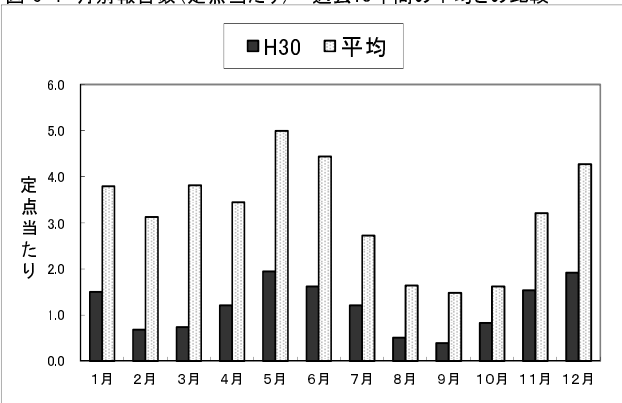


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は477例、定点あたり報告数は14.03(全国平均17.6)で前年(23.29)より大きく減少した。  
 平成29年は、過去10年間の全国平均より報告数が多く全国順位も急上昇したが、30年は過去10年の全国平均を下回り、全国順位も29位と28年とほぼ同じレベルに戻った。  
 保健所別定点あたり報告数は、全保健所管内で前年を上回った29年より減少し、奈良市保健所で(16.89)、郡山(15.00)、中和(西)(11.17)、吉野(5.50)保健所ではさらに28年よりも減少した。中和(東)(15.57)、内吉野(3.00)であった。  
 月別の定点あたり報告数はすべての月で過去10年の平均より下回った(定点あたり2.0以下)。  
 週別報告数では、初夏(第19～25週)と初冬(第48～52週、第1週)にしばしば増加するのは変わらないが、定点あたり0.8を越えることはなく、グラフは通年過去10年間の平均ラインより下回っている。  
 年齢別報告数では5歳(75例)、6歳(69例)、7歳(61例)辺りにピークがあり、全体の43%を占める。ピークは昨年よりやや右へシフトした。4歳は38例でこの下の年代からワクチン定期接種の効果が出てくると考えられるが、0歳～4歳までの報告数は全体の30.4%を占めている。(0歳23例、1歳40例、2歳23例、3歳21例、4歳38例)  
 水痘ワクチンの2回目接種が完了していない児もいると思われるので、しばらく動向を注視したい。

(水野 文子 記)

## 7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

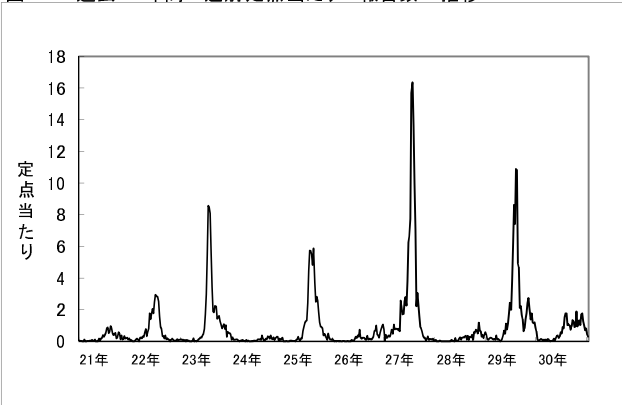


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

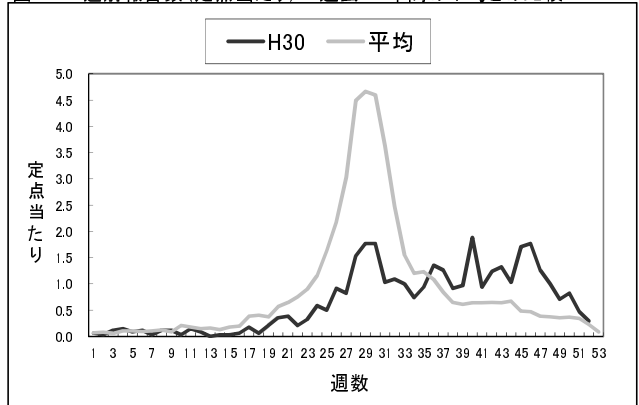


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

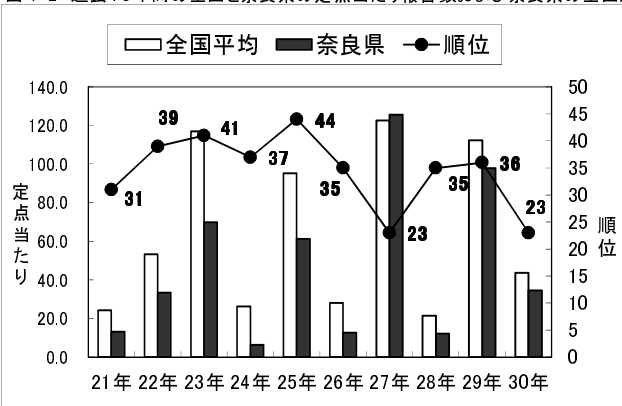


図 7-6 年齢別報告数(実数)

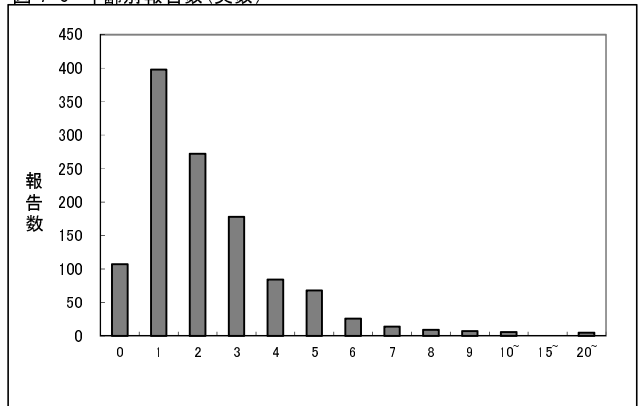


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

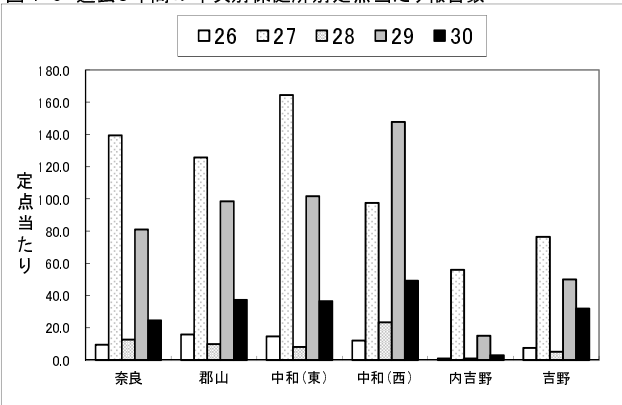
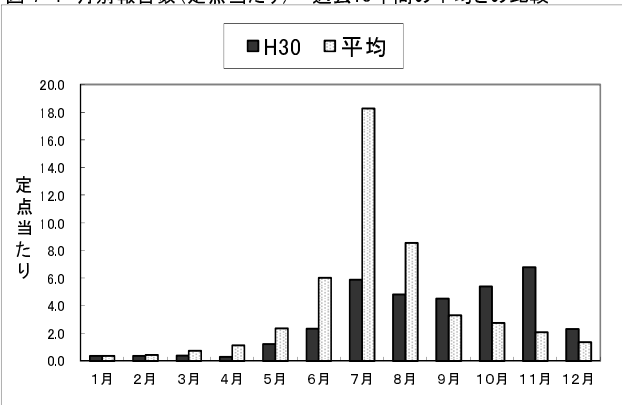


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は1,174例、定点当たりの報告数は34.53(全国平均:43.60)で、全国平均より下回っていたが、都道府県別の定点当たりの報告数で見ると、報告数の少ない都道府県が多かったため、全国順位は第23位だった。過去10年間の定点当たりの報告数を見ると、隔年周期の流行を認めており平成30年は非流行年ではあったが34.53と多かった。

保健所別に定点当たりの報告数を見ると、例年とほぼ同様で北中部保健所からの報告数が多く、中和保健所(西)が49.17と最多で、郡山保健所、中和保健所(東)が、順に37.22、36.57とほぼ同程度、次いで吉野保健所:32.00、奈良市保健所:24.56と続き、内吉野保健所が3.00で例年通り最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、例年は7月をピークとし6月～8月に集中する一峰性分布(第25～36週頃)であったが、平成30年は、定点当たりの報告数の減少を認めたが6月～8月にかけて同様のピークを形成し、さらに9月以降(第36週～)も11月(～第46週頃)まで減少することなく再度増加し続け、ほぼ二峰性分布をなしていた。

年齢別での実報告数を見ると、0歳(107例)、1歳(398例)、2歳(272例)、3歳(178例)にほぼ集中しており、これらの年代で全報告数の80%強を占めていた。また、6歳までの小学校就学前の年代で全報告数の96.5%(1,133例)を占めており、例年通りの年齢分布であった。

手足口病の原因ウイルスとして、主にコクサッキーウイルスA群16型(CA16)やエンテロウイルス71型(EV71)などがあげられているが、病原体定点から提出された検体の検出ウイルスをみると、平成23年以降隔年周期で流行を引き起こしたウイルスは、CA16・EV71ではなくコクサッキーウイルスA群6型であった。また、平成30年は上述の様に非流行年であった。

(村井 孝行 記)

## 8. 伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

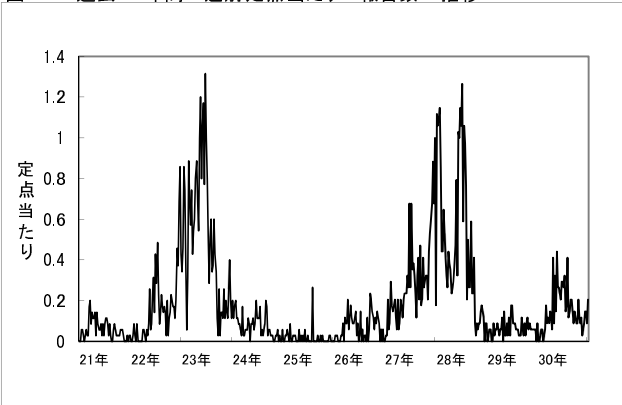


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

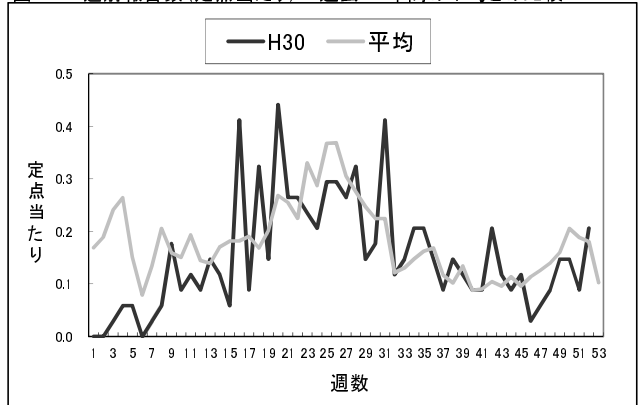


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

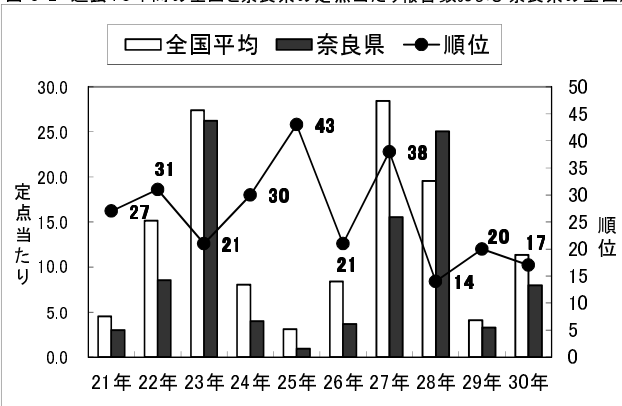


図 8-6 年齢別報告数(実数)

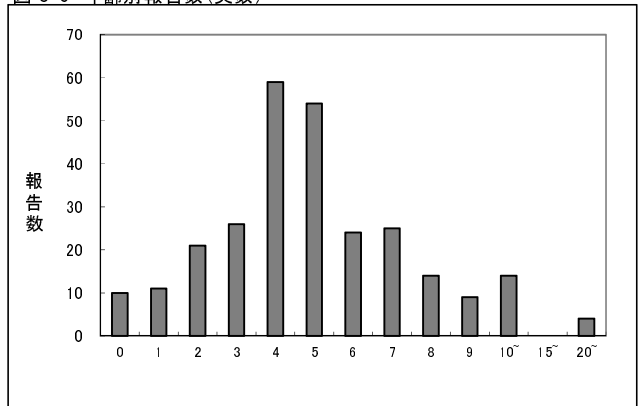
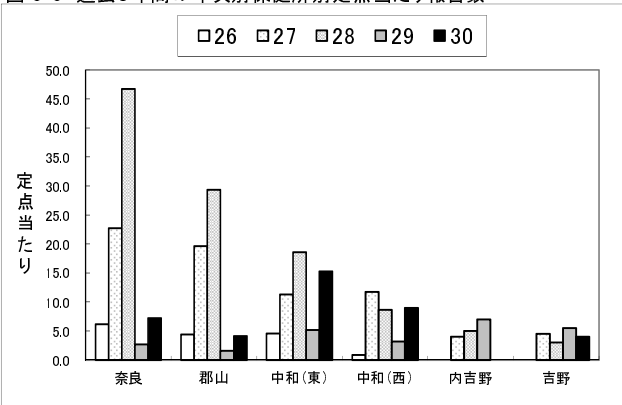


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

平成30年における全報告数は271例、定点当たりの報告数は7.97(全国平均:11.35)だった。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、ほぼ3~4年間隔の流行周期を認め、非流行年では1.00前後~3.00台の間を推移しており(流行年は平成23年:26.26、平成27年:15.56、平成28年:25.06)、非流行年では平成22年:8.54に次ぎ多かった。都道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県は全国平均を下回っているものの、他都道府県の定点当たりの報告数が手足口病と同様であったため、全国順位が第17位となっていた。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、ここ2年間は例年の傾向とやや異なり、平成29年は南部保健所>中部>北部、平成30年は中部保健所>北部>南部の順に多くなり、中和保健所(東):15.29、中和保健所(西):9.00と多く、次いで奈良市保健所:7.22と続き、郡山保健所:4.11、内吉野保健所:4.00とほぼ同数で、吉野保健所:0.00と全く報告がなかった。

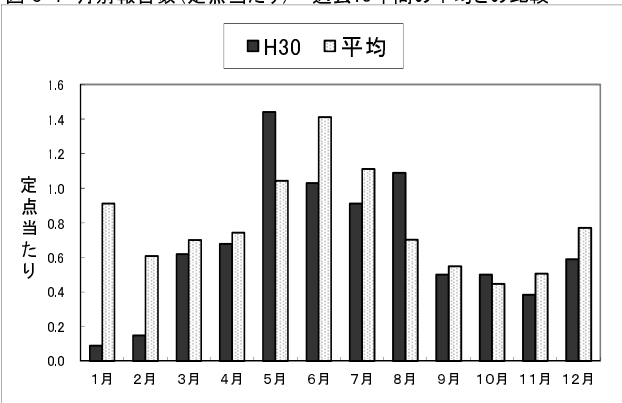
月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、5~7月頃(第16~28週頃)をピークとする分布には変わりがなかったが、平成30年も平成29年と同様に、1~2月(第1~8週)にかけての冬期における定点当たりの報告数の減少が特に目立ち、過去10年間平均報告数のほぼ1/10~1/4までに減少していた。また、逆に5月(第16~20週頃)と8月(第31~35週頃)の定点当たりの報告数が、過去10年間平均報告数の約1.3~1.5倍に増加していた。

年齢別での実報告数をみると、平成30年は4~5歳をピークにした一峰性を形成しており、4~5歳において全報告数のほぼ40%強(113例)を占め、また、0~9歳の年代で253例(93.4%)報告された。

伝染性紅斑は、主にヒトパルボウイルスB19(HPV-B19)による感染症で、また、HPV-B19は、赤芽球前駆細胞(赤血球の前段階)に感染し破壊することがあり、妊婦が初感染で胎児までに感染がおよんだ場合、胎児の赤血球は減少し重症胎児貧血による胎児水腫が原因で死産に至る。さらに、流産や子宮内胎児発育遅延の原因にもなるため、家庭内に好発年齢の小児がいる妊婦は注意を要する。

(村井 孝行 記)

図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 9. 突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

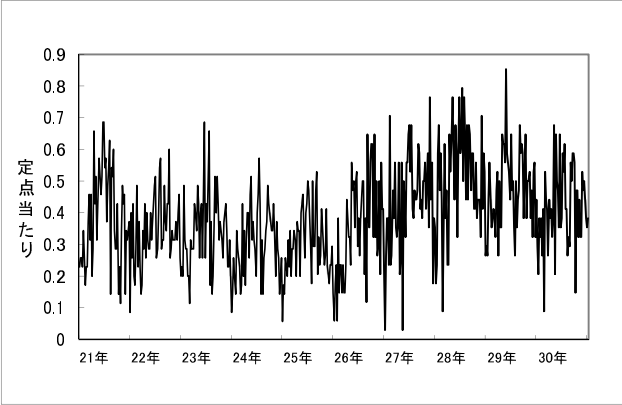


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

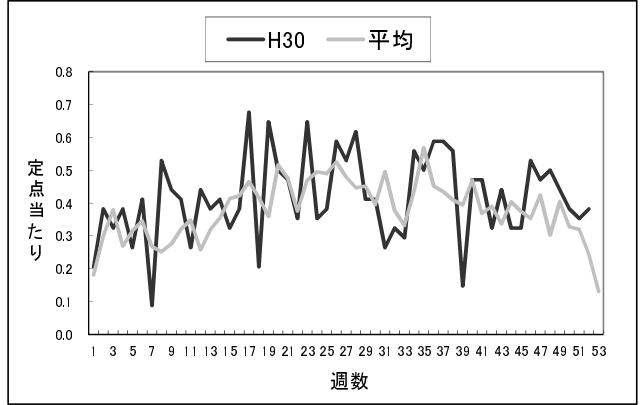


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

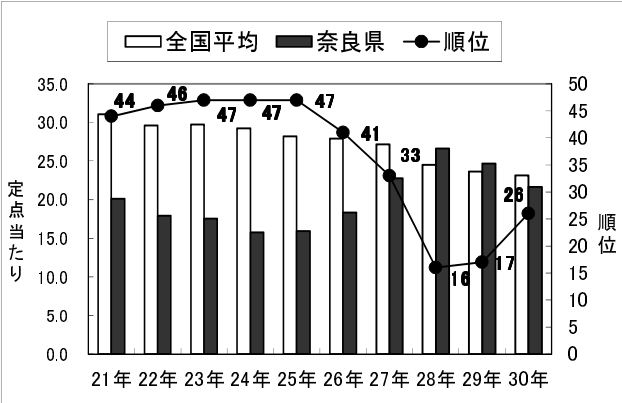


図 9-6 年齢別報告数(実数)

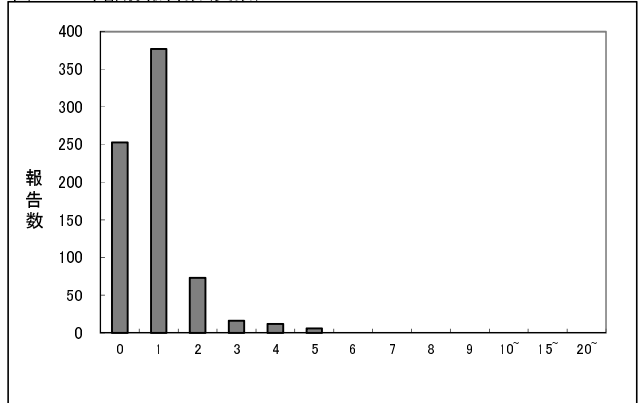


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

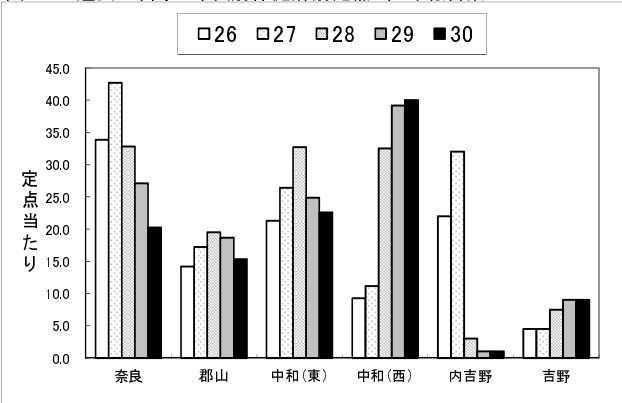
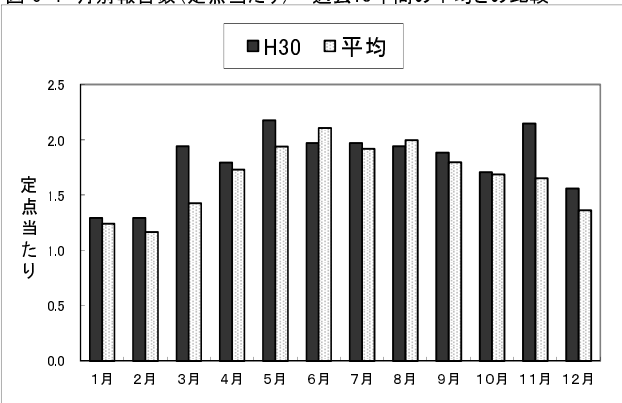


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は737例、定点当たりの報告数は21.68(全国平均:23.14)で、3年ぶりに全国平均をやや下回った。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、全国的には平成21年以降はなだらかに減少傾向が認められているのに対し、奈良県では平成27年以降も減少傾向にはあるが報告数の多いレベルが続いていた。このため、道府県別に定点当たりの報告数をみると全国順位も第26位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、平成28年からは中部の保健所から報告が多くなっており、平成30年も特に中和保健所(西):40.00と最多となり顕著に突出していた。ついで、中和保健所(東):22.57、奈良市保健所:20.22とほぼ同数で、郡山保健所:15.33と続きここ数年間の傾向に大きな変化はなかった。また、平成28年より内吉野保健所からの報告数は激減しており、吉野保健所:9.00、内吉野保健所が1.00と3年続けて最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、ほぼ例年通り5~6月の梅雨入り前後から7~9月の夏場~初秋をピークとしたほぼ一峰性に近い分布であったが、平成30年においても概ね例年通りの傾向を認めていたものの、第8~10週頃にかけての3月と第46~48週頃にかけての11月のみ、定点当たりの報告数はピーク時とほぼ同等に多くなっていた。

年齢別での実数報告数をみると、0歳(253例)と1歳(377例)においてほぼ全報告数のほぼ85%を占めており、2歳で73例の報告はあるものの以降の年代では、ほぼ散発な報告だった。

突発性発しんは、主にヒトヘルペスウイルス6、7(HHV-6、HHV-7)やエンテロウイルスを原因ウイルスとする感染症で、母体からの移行HHV-7抗体は、HHV-6抗体よりも長期間持続するといわれている。このため、HHV-6による突発性発しんに遅れてHHV-7による2度目の突発性発しんとして臨床経験されることがあるという報告もある。

(村井 孝行 記)

## 10.ヘルパンギーナ

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

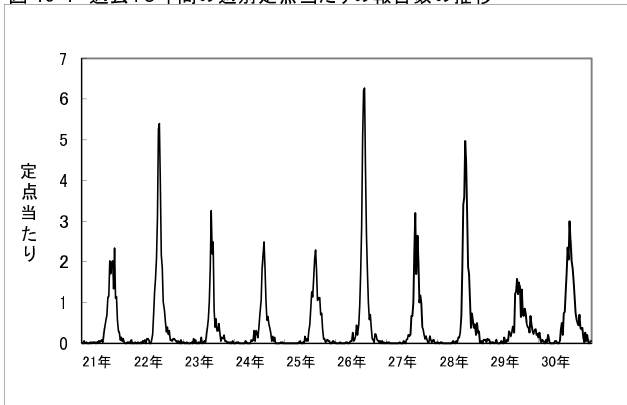


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

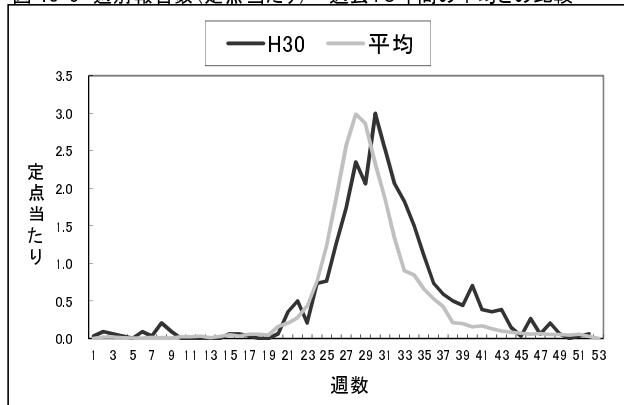


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

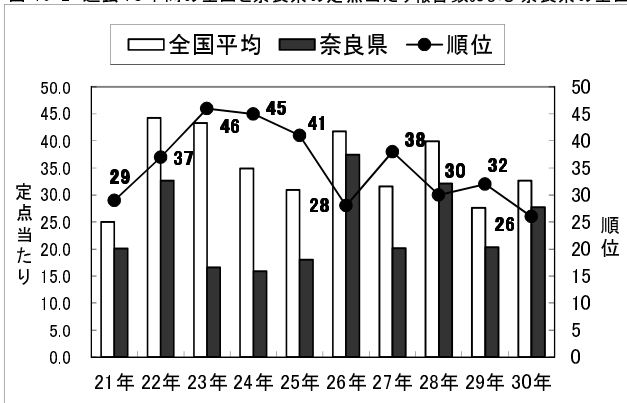


図 10-6 年齢別報告数(実数)

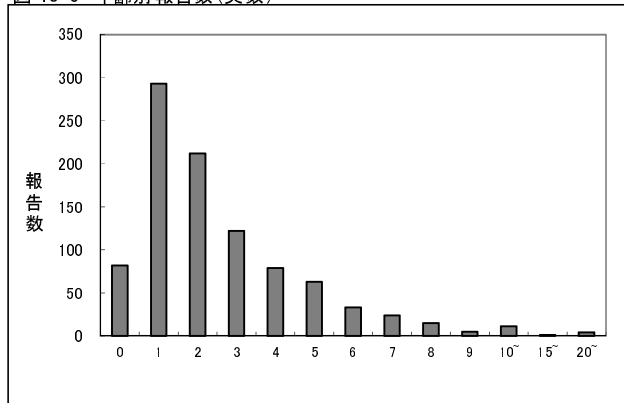


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

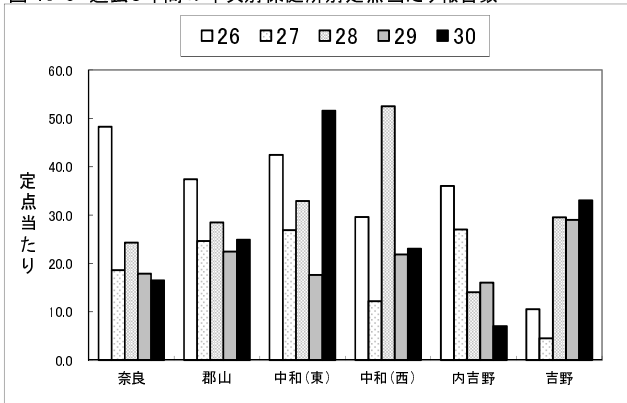
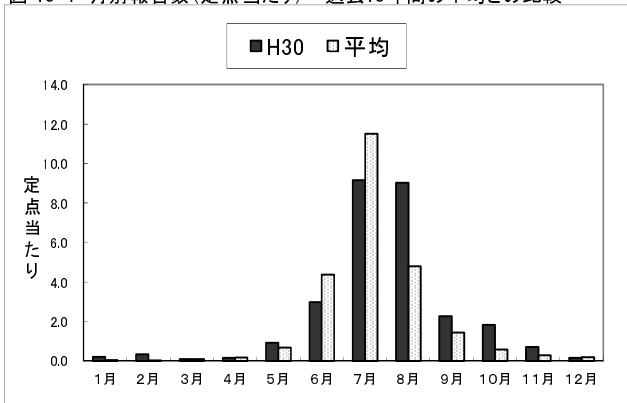


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

H30の奈良県の報告数は944人(定点当たり27.76)であった。

【図10-1】過去10年間での最大の週は、H26の第29週(6.24)(213人)であった。H30では第30週(3.00)(102人)で、過去10年間で6番目のピークの年となった。

【図10-2】奈良県は、H23が16.63で全国第46位であった。H30は奈良県(27.76)(26位)と順位は上げたが、定点当たり報告数は全国平均(32.68)を下回っていた(10年連続)。

【図10-3】H30は①中和(東)(51.57)、②吉野(33.00)、③郡山(24.89)、④中和(西)(23.00)、⑤奈良(16.44)、⑥内吉野(7.00)の順であった。また、同一保健所管内での推移では、中和(東)と吉野でH30が最多、奈良と内吉野でH30が最少となった。

【図10-4】最多の月は、10年平均が7月(11.51)で、H30も7月(9.15)であった。

【図10-5】最多の週は、10年平均が第28週(2.99)で、H30が第30週(3.00)(102人)であった。

【図10-6】0歳が82人。1歳が293人で最多であった。以下、9歳(5人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は10-14歳(11人)、15-19歳(1人)、20-29歳(4人)であった。

なお、2018年は、コクサッキーウイルスA群をはじめとし、6種類のウイルスが検出されたが、どれも検出数は少なかった。

(柳生 善彦 記)



# 11.流行性耳下腺炎

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

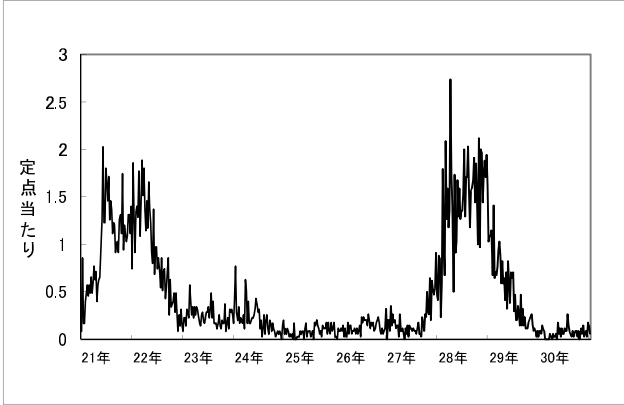


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

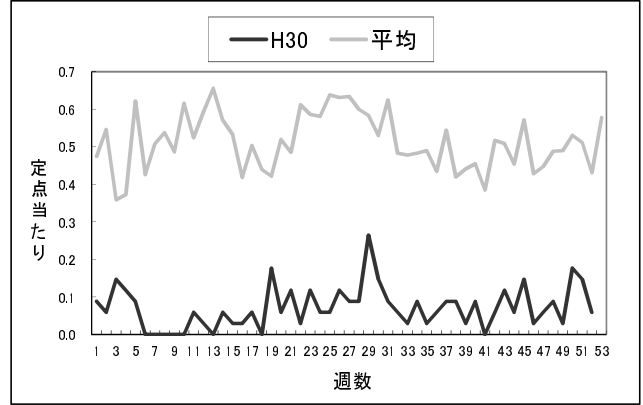


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

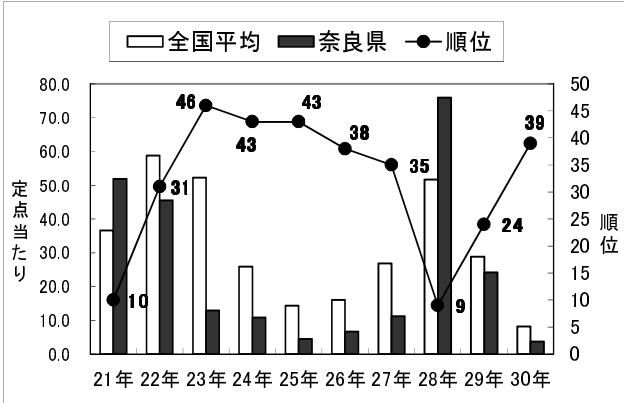


図 11-6 年齢別報告数(実数)

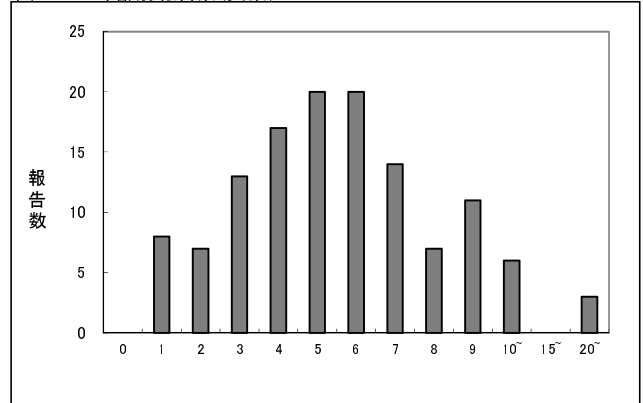


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

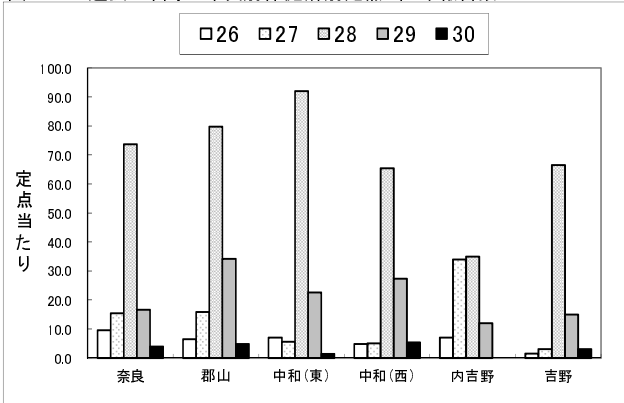
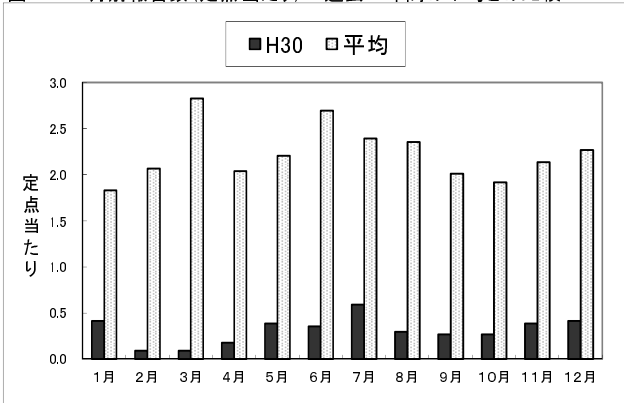


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## コメント

H30の奈良県の報告数は126人(定点当たり3.71)であった。

【図11-1】過去10年間での最大の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。

【図11-2】全国、奈良県共にH30が過去10年間での最少。そのH30は奈良県(3.71)(39位)で、定点当たり報告数で全国平均(8.20)を下回っていた。一方、過去10年間で奈良県が上回っていたのはH21(奈良県51.91、全国平均36.57)、H28(76.00、51.71)の2回。

【図11-3】H30は①中和(西)(5.33)、②郡山(4.78)、③奈良(3.89)、④吉野(3.00)、⑤中和(東)(1.43)、⑥内吉野(0.00)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、6保健所管内ともH28が最多で、一方、奈良、郡山、中和(東)、内吉野の4保健所でH30が最少となった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が3月(2.83)で、H30は7月(0.59)であった。

【図11-5】10年平均では1年を通して上下幅0.36(第3週)～0.66(第13週)での推移であった。H30は上下幅0～0.18(第19、50週)内での推移であったが、最高値の0.26(第29週)のみ上振れとなっていた。

【図11-6】0歳(0人)、1歳(8人)、2歳(7人)から最多の5歳、6歳(20人)までは漸増、6歳から8歳(7人)までは漸減。9歳は11人。また、年齢階級別報告数は10-14歳(6人)、20-29歳(3人)であった。

(柳生 善彦 記)



## 眼科定点分

## 12.急性出血性結膜炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

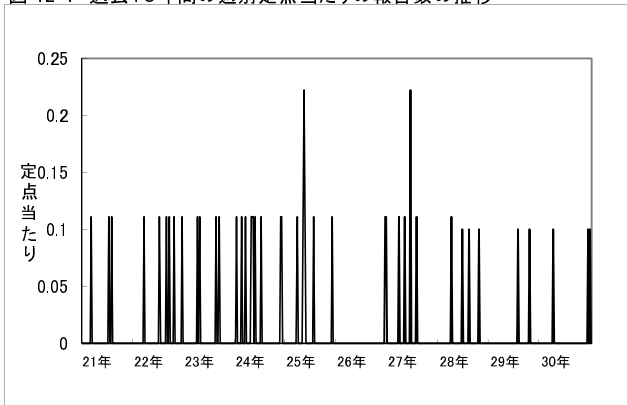


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

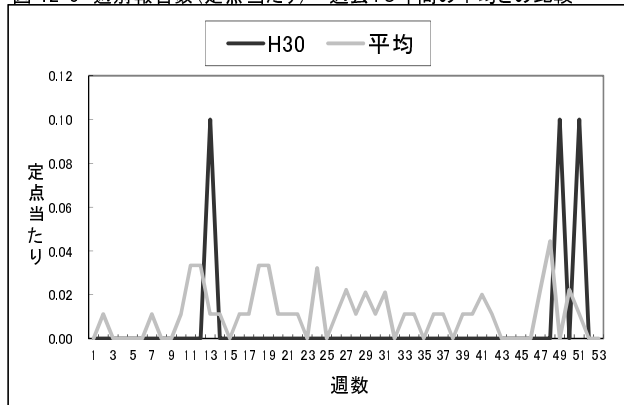


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

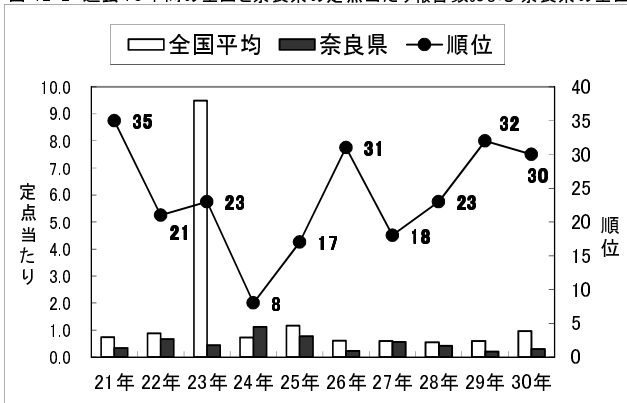


図 12-6 年齢別報告数(実数)

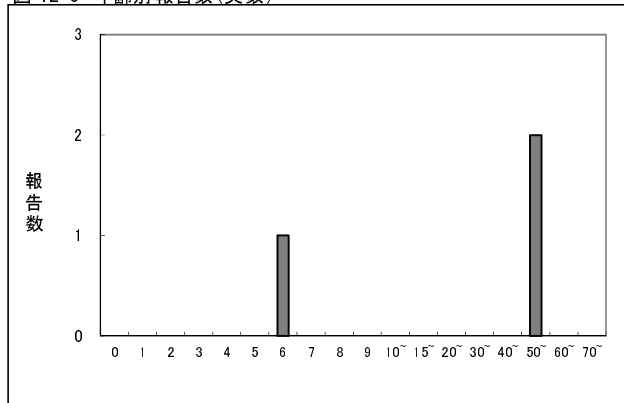


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

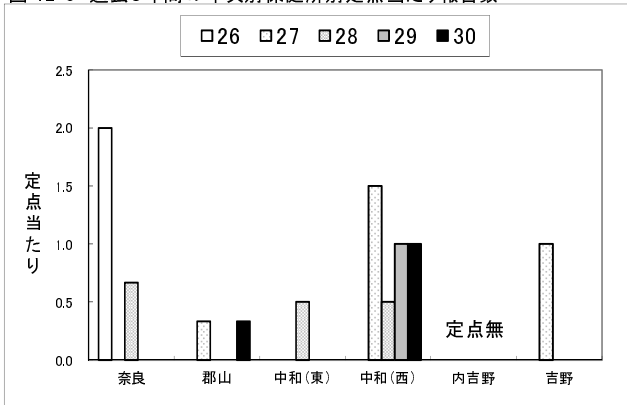
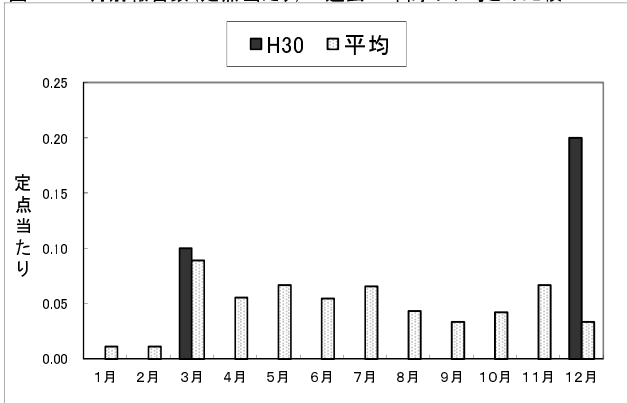


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

県内定点全体では3例の報告があり、13,49.51週に各1例報告された。郡山と中和西で、6歳と50歳台であった。全国順位は30位で定点あたりの報告数は全国平均0.97より少ない0.3であった。

(平井 宏明 記)

### 13.流行性角結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

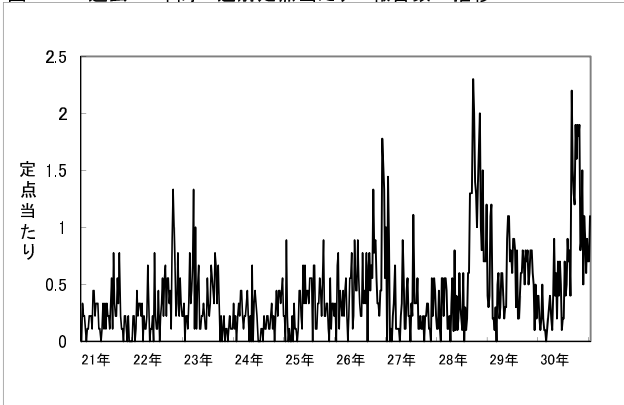


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

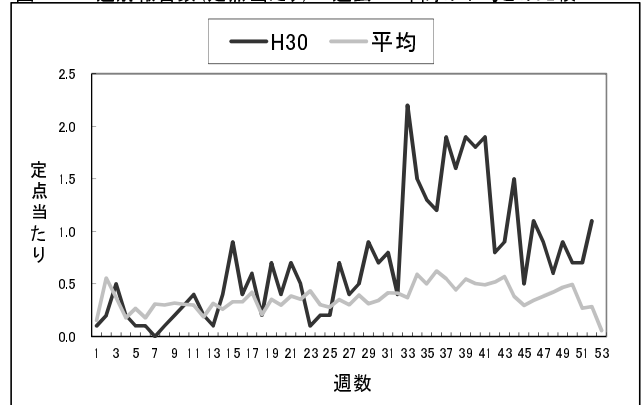


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

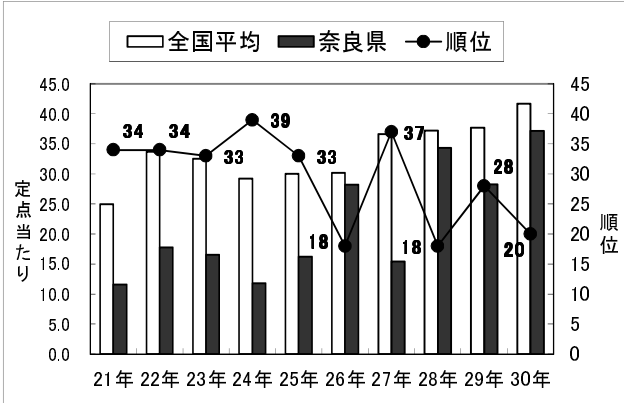


図 13-6 年齢別報告数(実数)

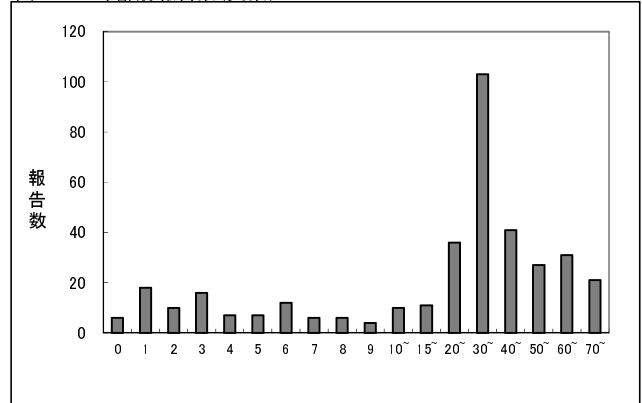


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

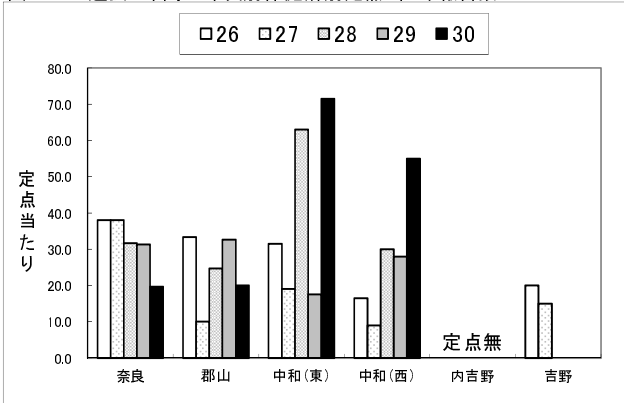
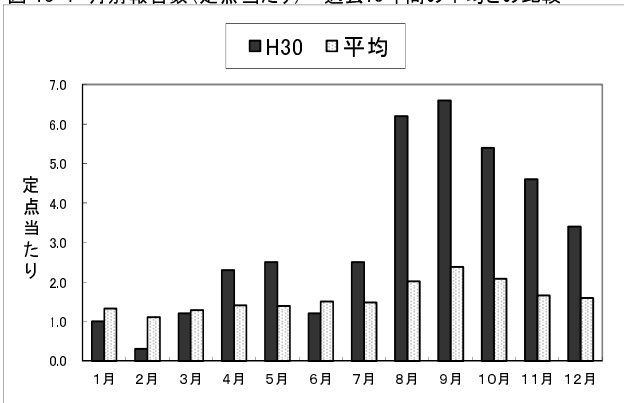


図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



#### コメント

県内定点全体では372例の報告があった。前年の283例より増加し、定点当たりの報告数は、全国と比較すると、全国平均41.7より少ない37.2となった。順位は20位と昨年の28位より上がった。時期的には8月から急増し9月をピークに12月にかけて徐々に減少した。定点あたりでは、中和東が多く中和西、郡山、奈良と続き、一方、吉野では報告がなかった。年齢では30歳台が103例と28%を占め、40歳台41例20歳台36例と続き、成人の感染例が多いことが特徴的であった。小児では1.3.6歳がやや多かった。幼児からその両親、祖父母へと広がった可能性が示唆された。

(平井 宏明 記)



## 基幹定点分(週報)

## 14.細菌性髄膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

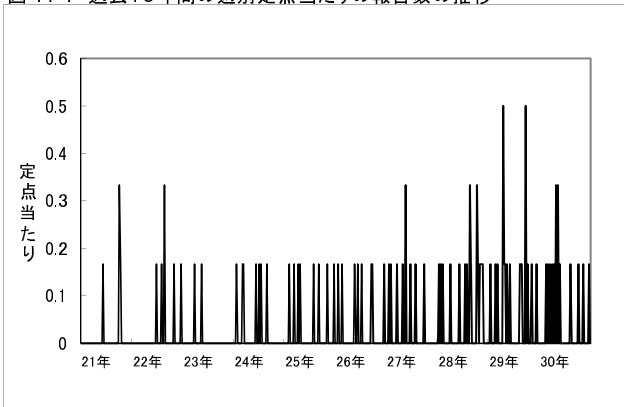


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

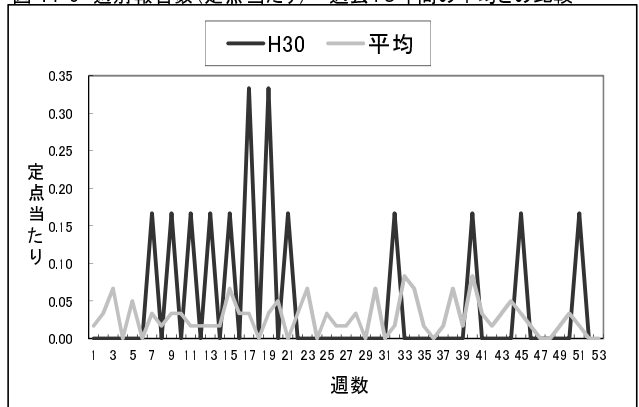


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

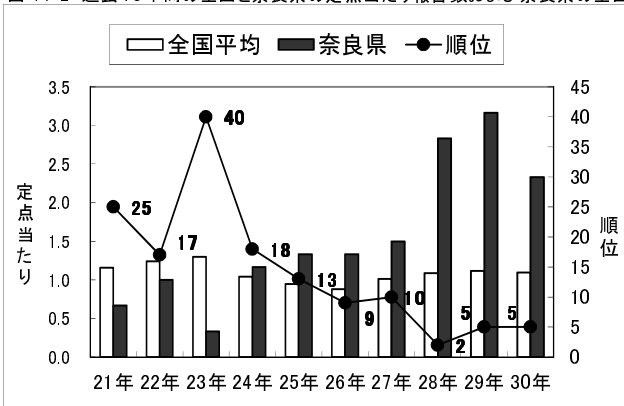


図 14-6 年齢別報告数(実数)

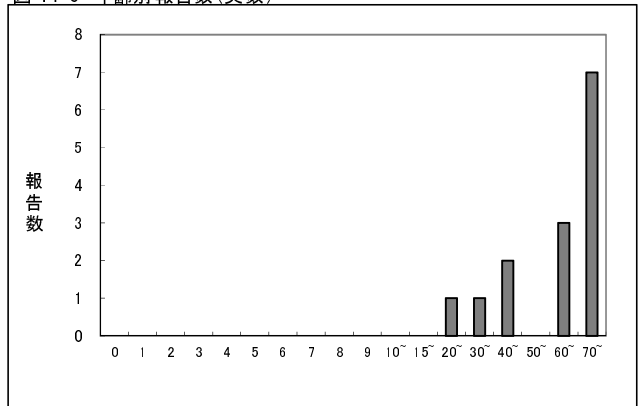


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

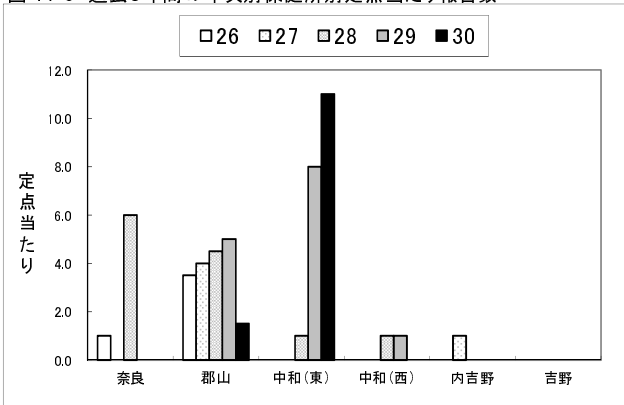
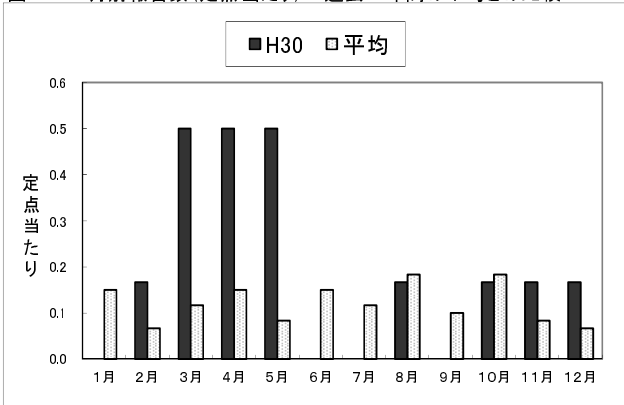


図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年の全報告数は14例で、定点あたりの報告数は2.3であった。奈良県はこれまでも報告数の多い県であったが、28年はこれまでで最も報告数が高く全国順位も2位であり、29年、30年とも全国順位5位と高いところでとどまっている。季節的な差は明らかではないが、3～5月に多い傾向にあった。かつて本邦における細菌性髄膜炎は5歳未満の報告が多く、全体の約半数を占めていたが、近年の奈良県では5歳未満の報告は少なく、特に30年は20歳未満の報告はなく、Hibワクチン、肺炎球菌ワクチンの普及によると考えられる。一方で、成人、特に高齢者の細菌性髄膜炎の頻度が高い傾向にある。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地がまだまだ残されているのかもしれない。

(矢野 寿一 記)



## 15.無菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

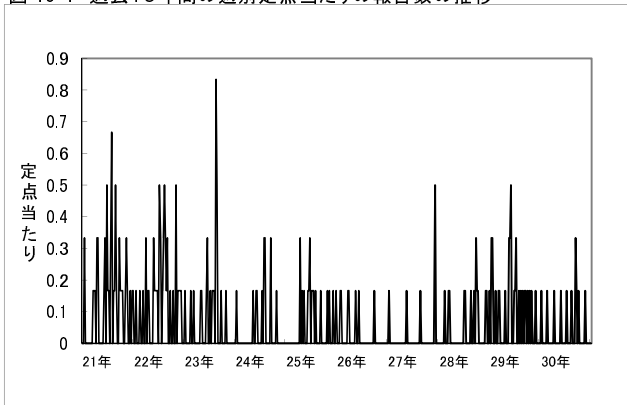


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

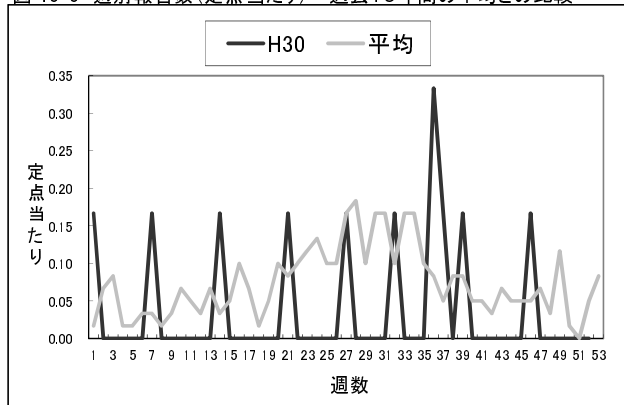


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

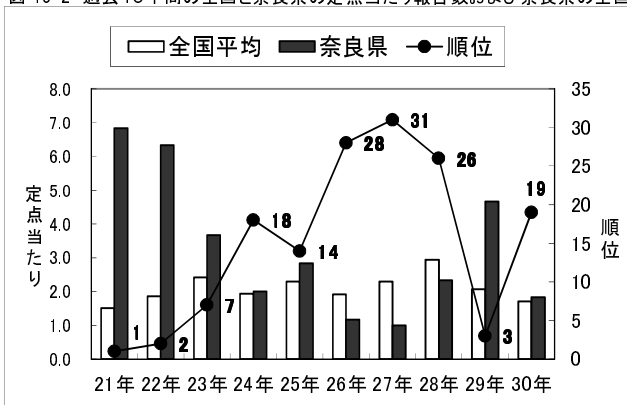


図 15-6 年齢別報告数(実数)

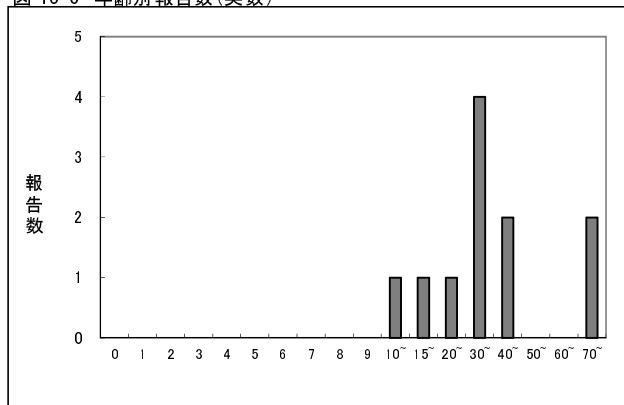


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

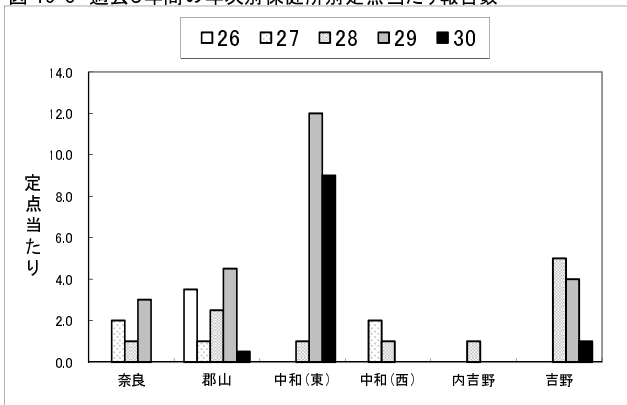
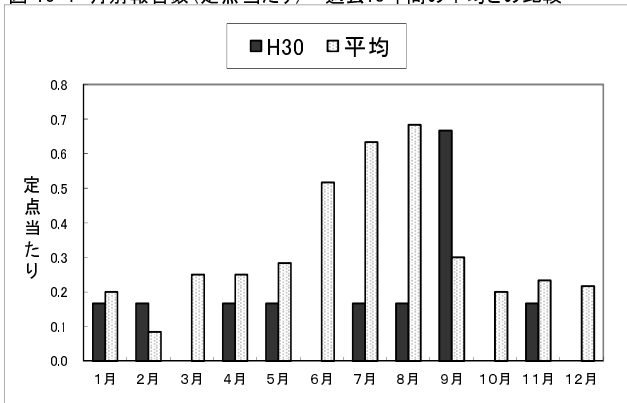


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年の全報告数は11例、定点あたりの報告数は1.8であった。29年は全報告数は28例、定点あたりの報告数は4.7で28年と比較しほぼ倍増し全国順位も3位と大きく上がってしまっていたが、30年は症例数が減り、全国順位も19位となった。夏季に報告数が多いことから、エンテロウイルス属であるコクサッキーウイルス、エコーウイルスによる無菌性髄膜炎と予測される。

(矢野 寿一 記)

## 16.マイコプラズマ肺炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

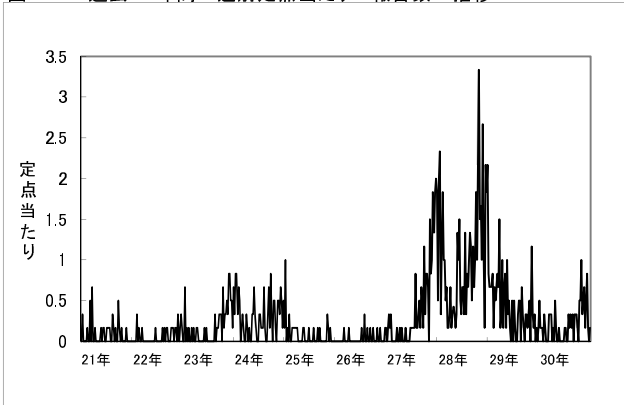


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

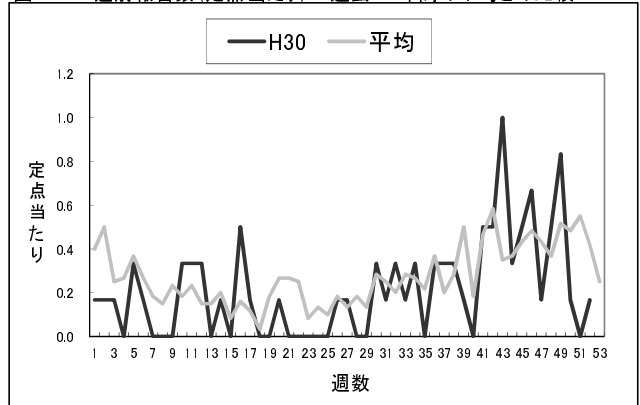


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

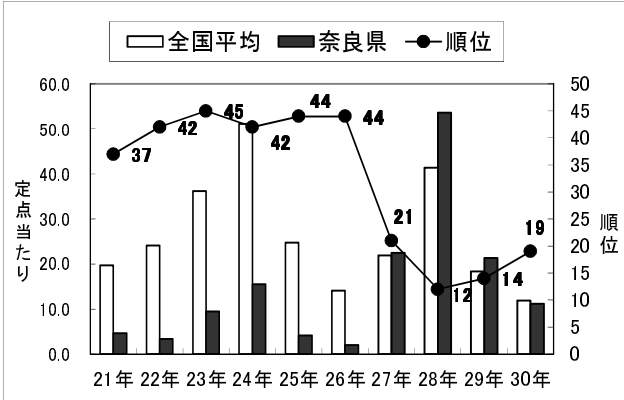


図 16-6 年齢別報告数(実数)

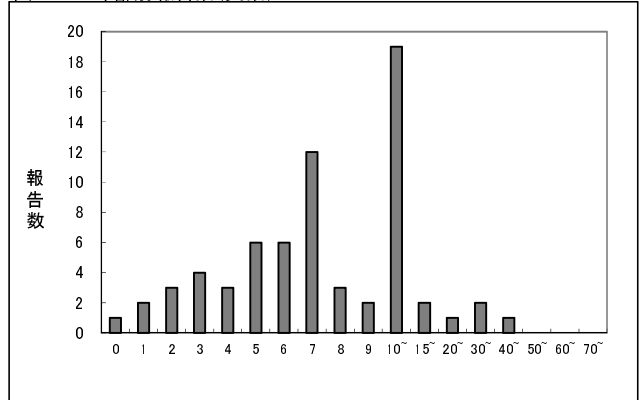


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

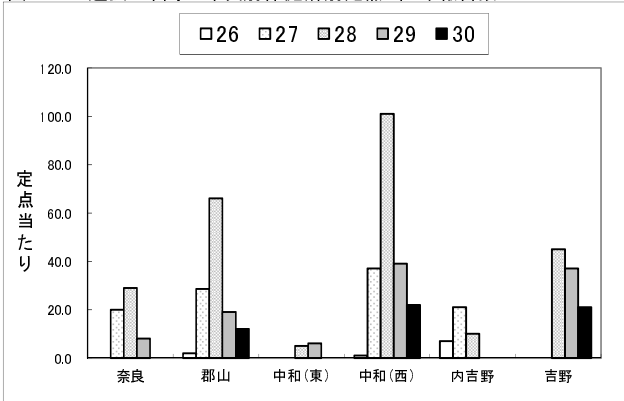
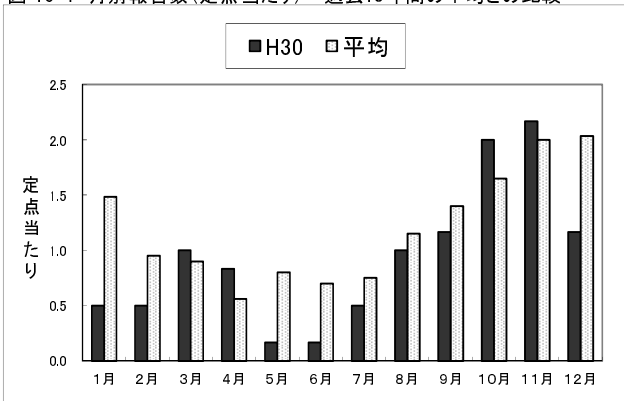


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は67例、定点あたりの報告数は11.2で、平成29年における全報告数、定点あたりの報告数と比較すると半数程度に減少している。全国的にも同様な傾向のようで、全国順位も19位と、29年の14位と大きな変化はなかった。マイコプラズマ肺炎は、28年に全国的な流行があったが、29年、30年も大きな流行はみられていない。

(矢野 寿一 記)

## 17.クラミジア肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

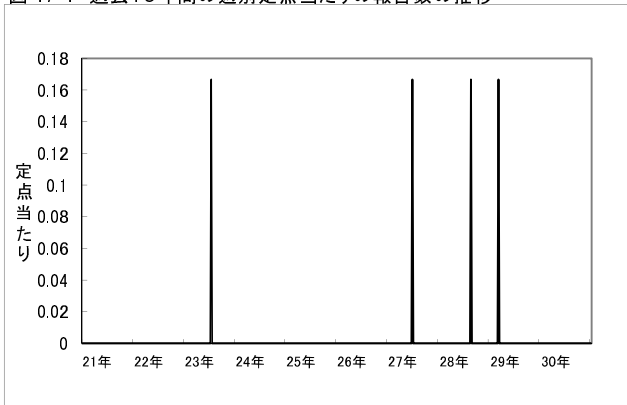


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

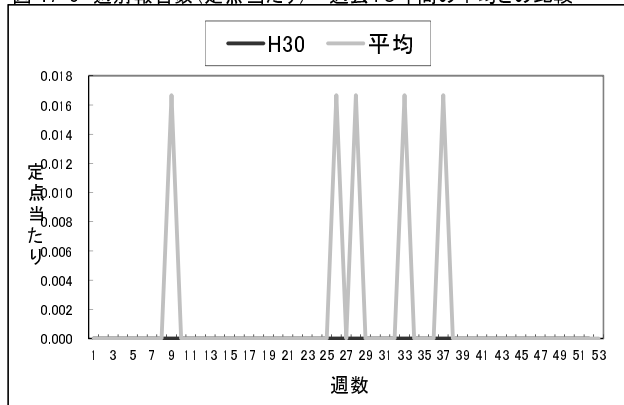


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

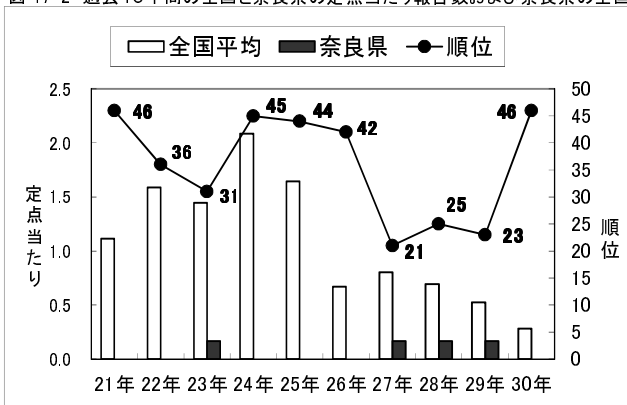


図 17-6 年齢別報告数(実数)

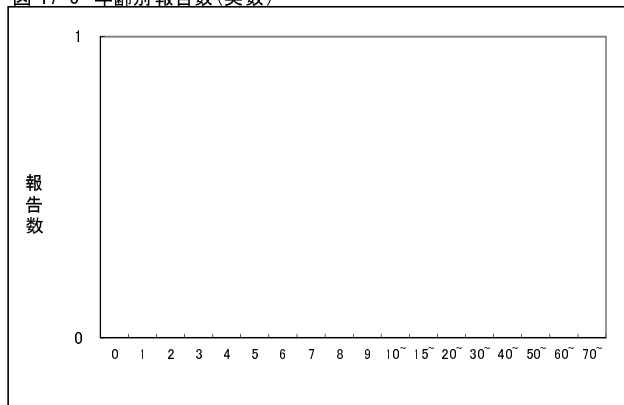


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

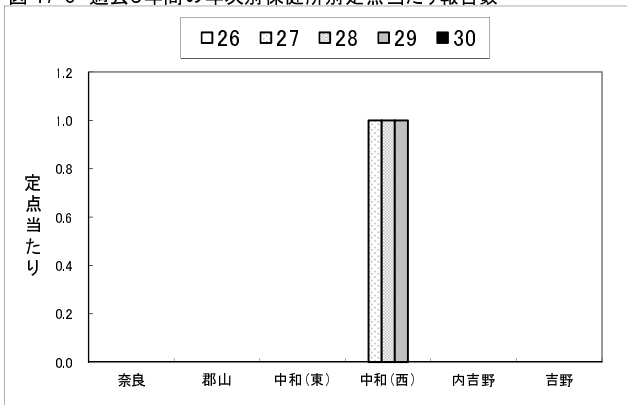
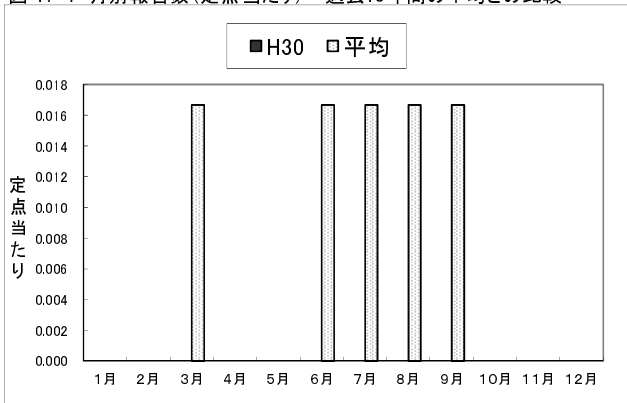


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年は、クラミジア肺炎の報告は見られなかった。平成24～26年も報告はなく、27年から29年にかけて1例ずつの報告があったが、これまで通り低値で推移していることに変わりないようである。  
(矢野 寿一 記)

## 18. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

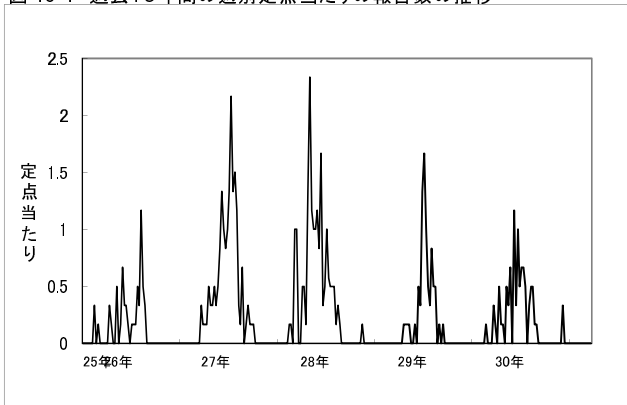


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

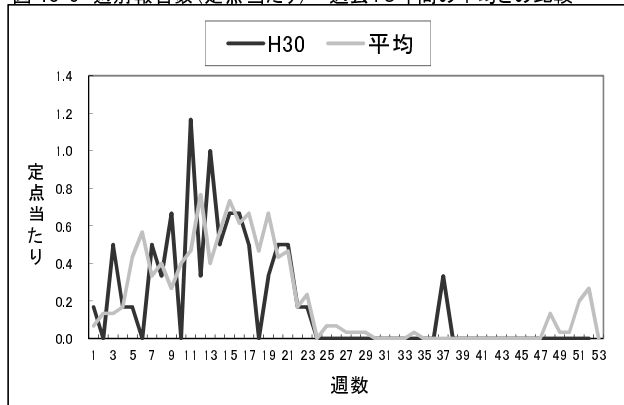


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

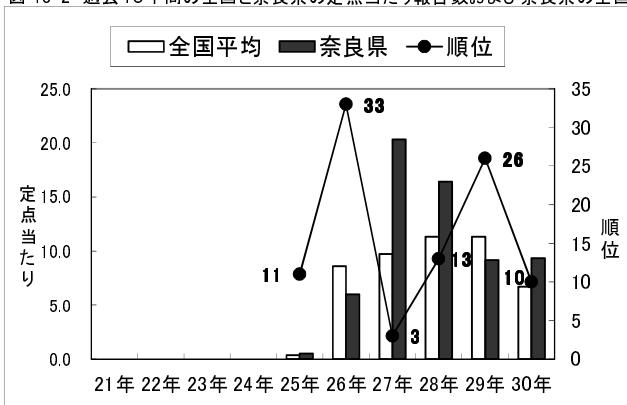


図 18-6 年齢別報告数(実数)

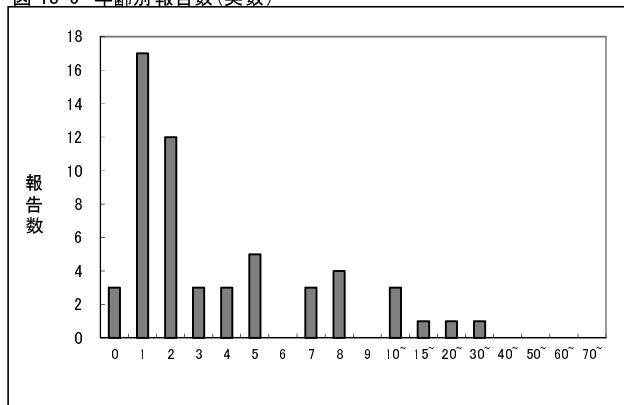


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

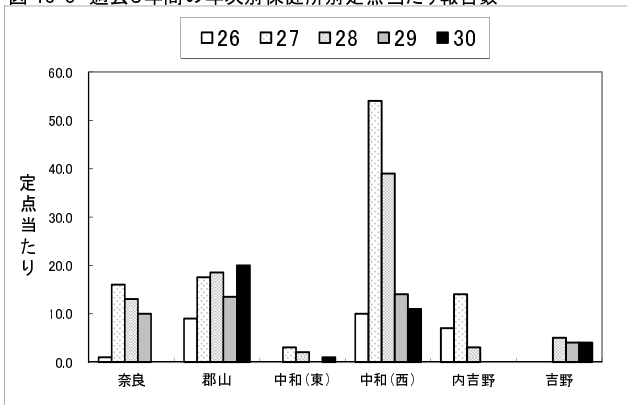
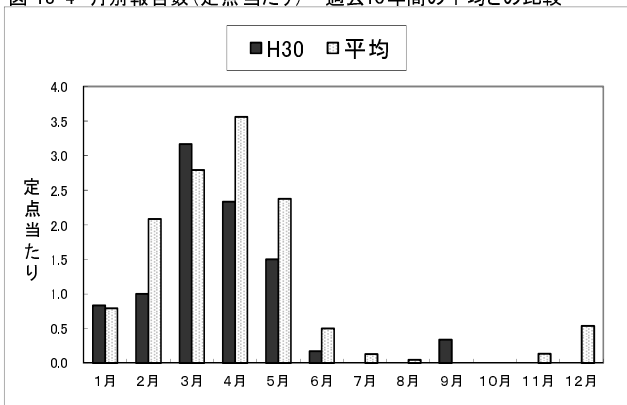


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成30年における全報告数は56件で、定点あたりの報告数は9.3であった。平成29年の全報告数55件、定点あたりの報告数9.2と大きな変化はみられなかったが、全国的には定点当たりの報告数がほぼ半減していたことから、全国順位は26位から10位へと悪化している。すでにロタウイルスワクチンが任意とはいえ接種可能となっている。奈良県における接種状況は明らかではないが、ロタウイルスワクチンの接種率の上昇を期待したい。

(矢野 寿一 記)

## 性感染症(STD)定点分

## 19.性器クラミジア感染症

図 19-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

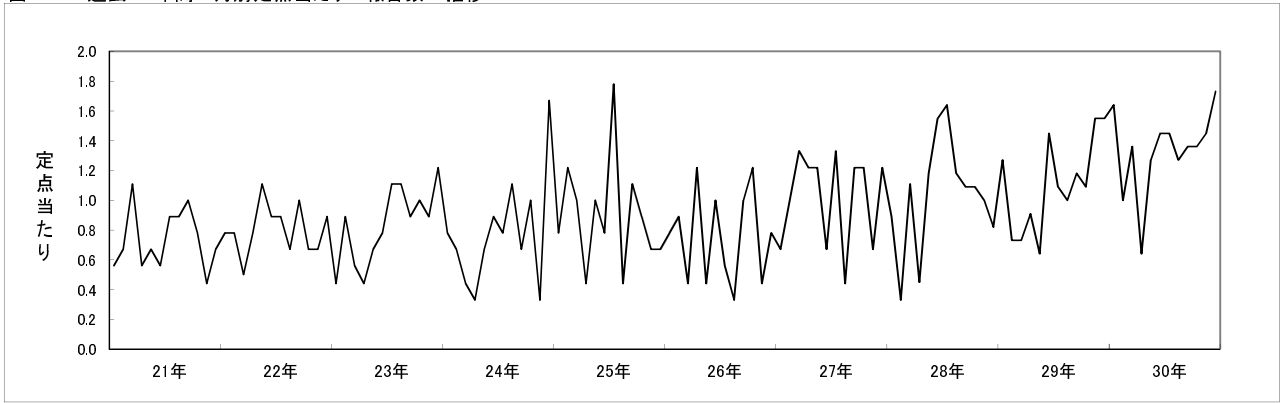


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

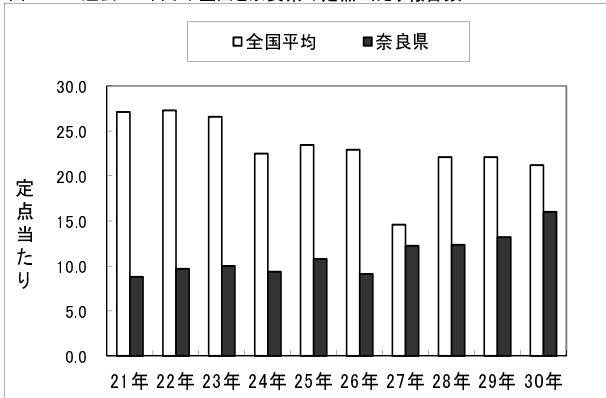


図 19-5 年齢別報告数(実数)

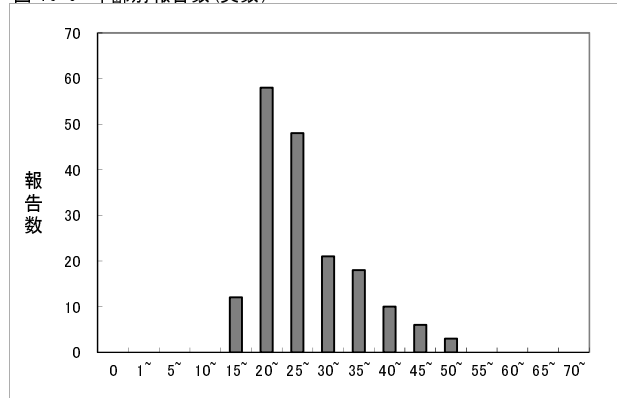
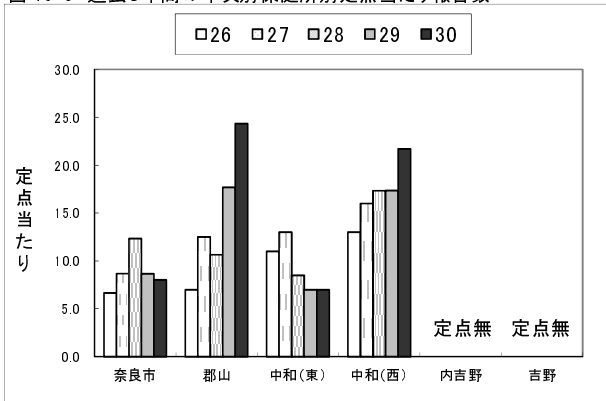


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

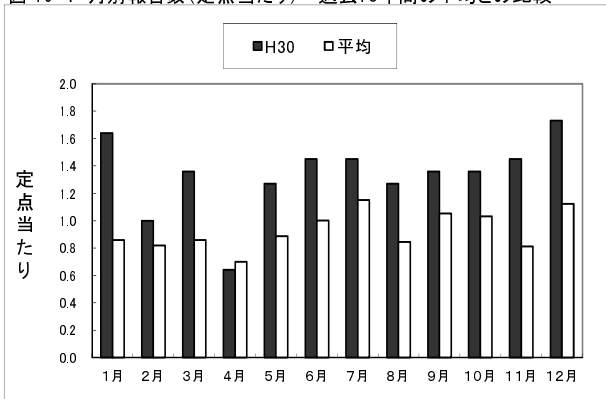


### コメント

報告件数は例年通り4疾患中第1位であった。報告数の全国平均は年々減少傾向にあるが、奈良県では増加が続いている。保健所別では郡山と中和(西)の増加が目立った。月別では2-4月の報告数が過去と同様にやや少なかった。年齢別では例年通り20歳代が圧倒的に多いが、年齢が上がるにつれて減少した。一方で、15歳代にも少なからず報告が見られた。他の3疾患と異なり、60歳以上の高齢者の報告がなかった。

(三馬 省二 記)

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 20.性器ヘルペスウイルス感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

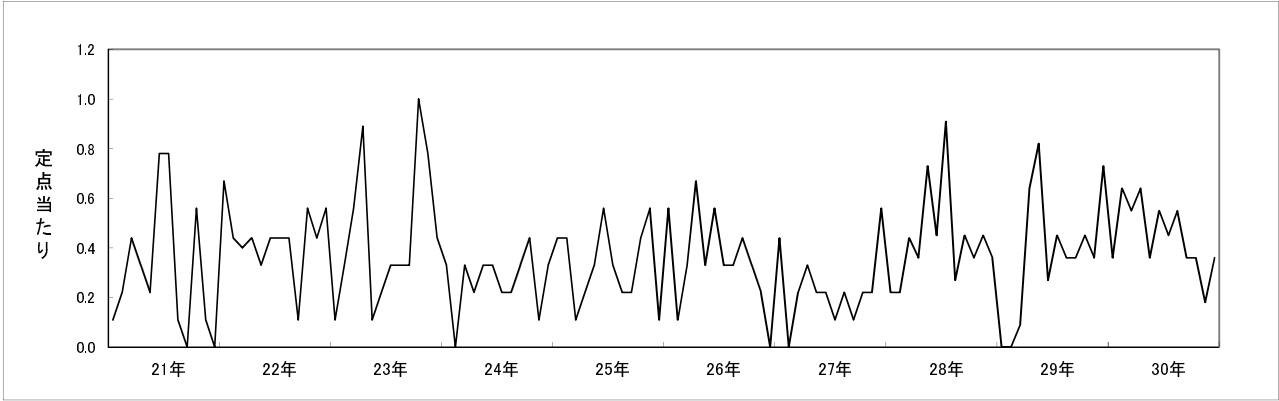


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

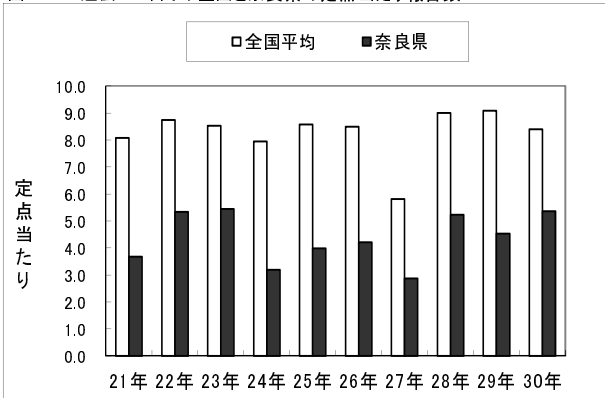


図 20-5 年齢別報告数(実数)

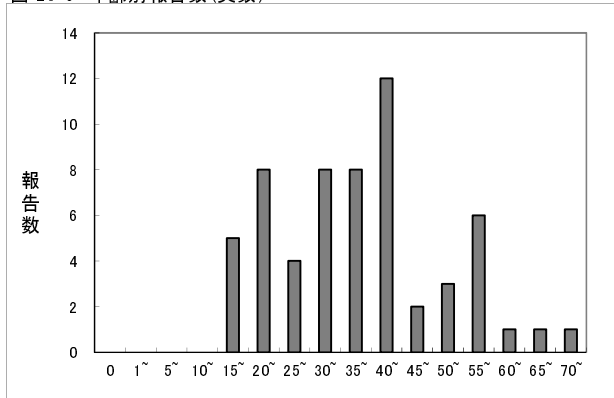
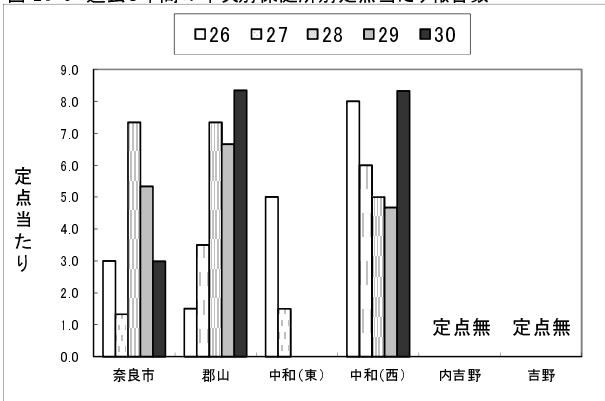


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

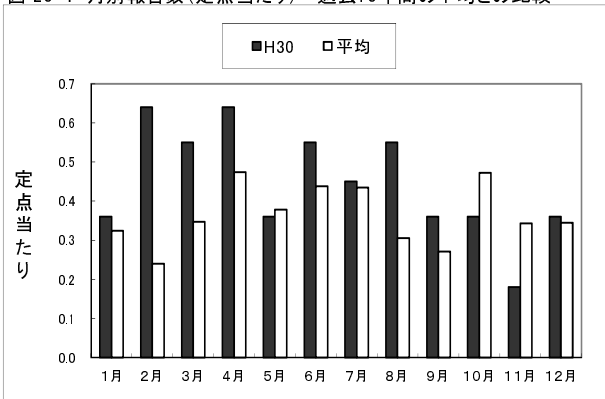


### コメント

報告数の年次推移は全国平均と併行しており、H28年からやや増加傾向にある。保健所別ではクラミジア感染症と同様に郡山と中和(西)が多く、特に中和(西)での増加が目立つ。月別では2~8月に多く、特に2-4月の増加が著明であり、クラミジア感染症や淋菌感染症と逆の所見を示した。年齢的には15歳代の若年者での報告があり、さらにクラミジア感染症に比較して30-40歳代が多く、50-70歳代まで幅広い報告があるのが特徴的である。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 21.尖圭コンジローマ

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

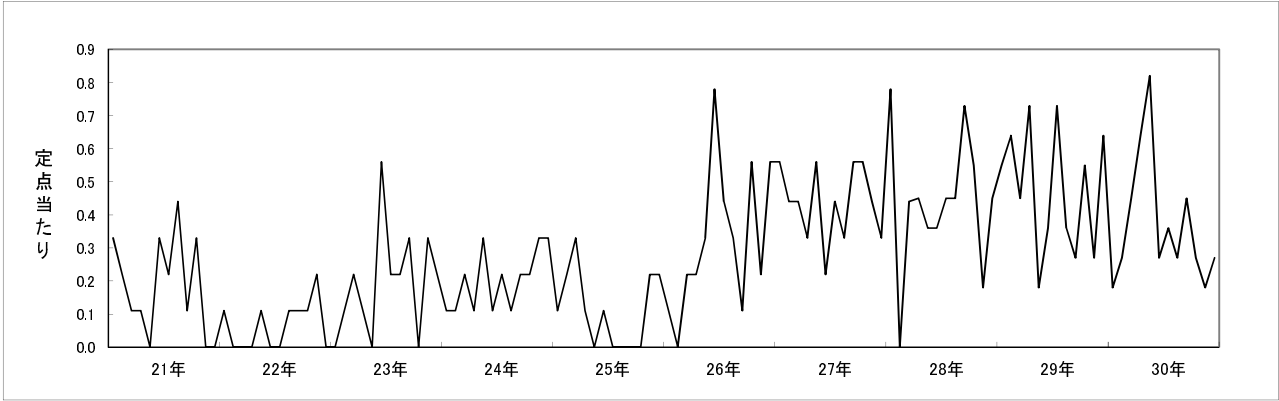


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

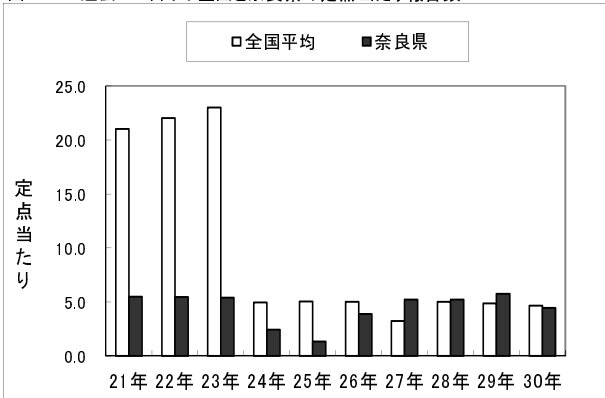


図 21-5 年齢別報告数(実数)

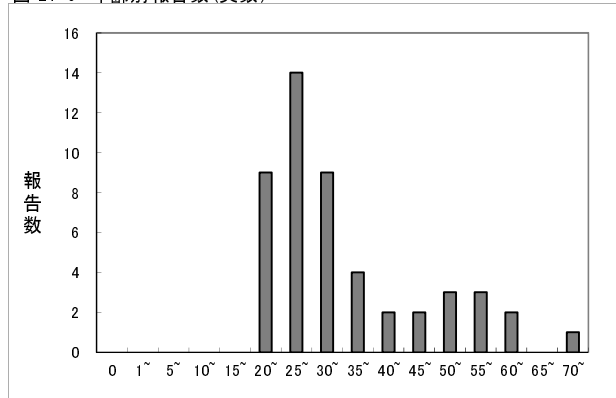
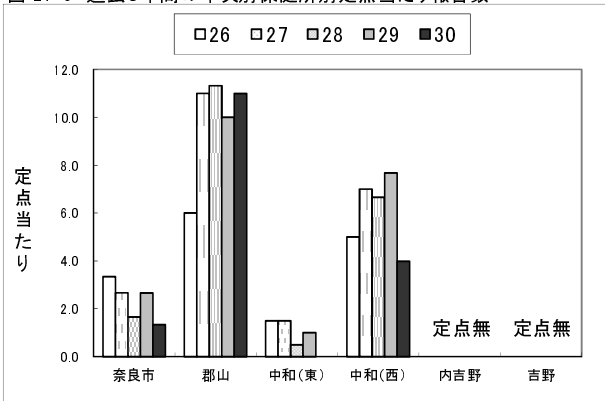


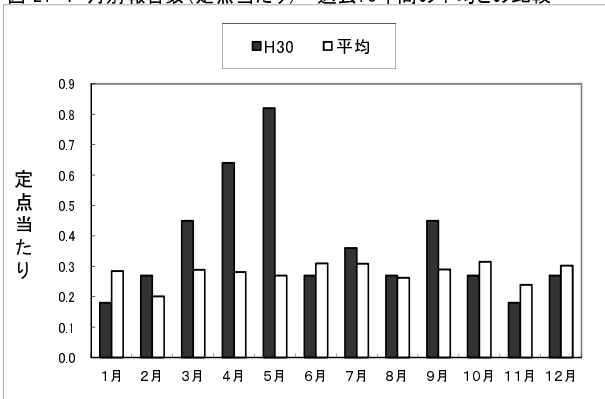
図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

報告数は全国平均がH24年以降著明に減少した。奈良県はH24年以前から報告数が少なく、全国平均と同期してH24-25年は減少したが、H26年以降はほぼ全国平均で横ばいである。保健所別では郡山が群を抜いて多い。月別では例年に比較して3-5月に増加した。年齢別では20-30歳代に多いが、70歳代まで幅広い報告があった。  
(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較





## 22. 淋菌感染症

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

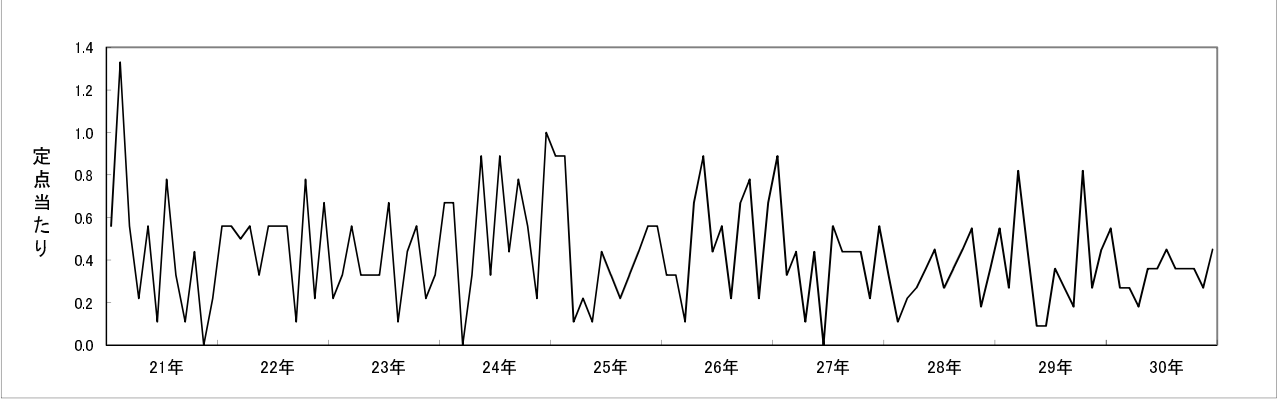


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

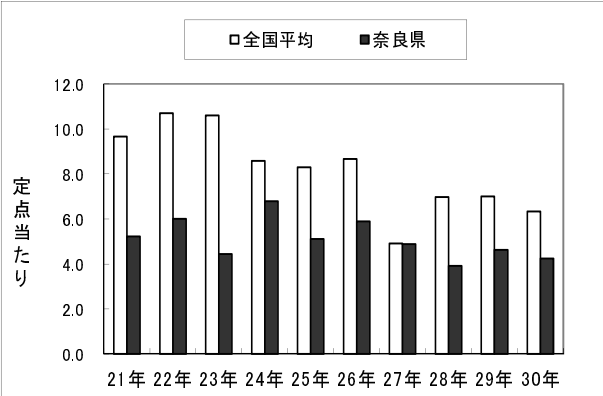


図 22-5 年齢別報告数(実数)

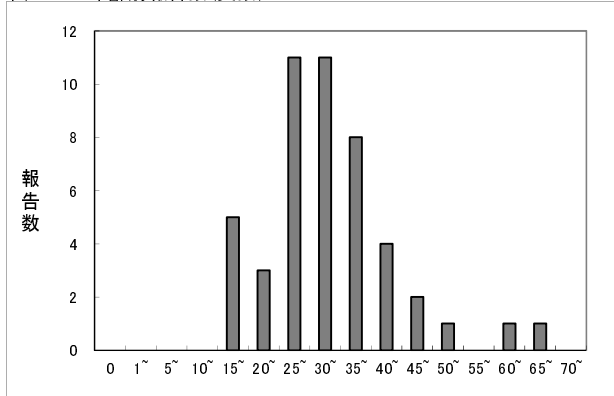
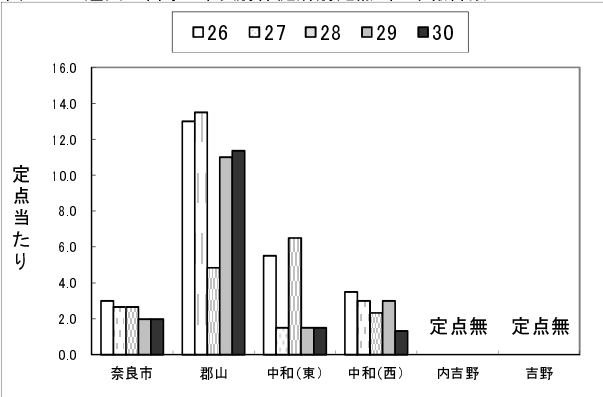


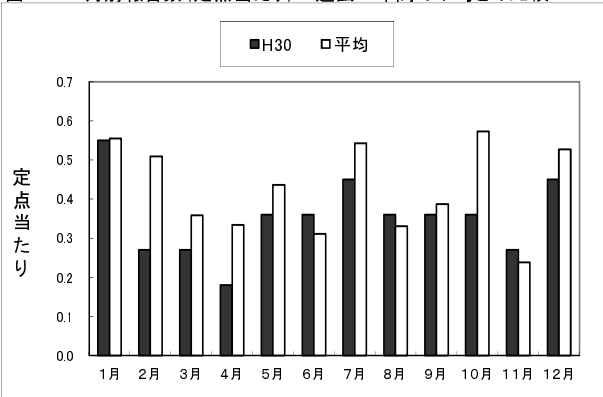
図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

報告数は全国平均より少ないが、横ばいである。保健所別では他3疾患同様郡山が最多で、残る3地点ではほぼ同数である。月別では2-4月の報告数が少なかった。年齢別では15歳代の若年層の報告が例年並みに見られた。また、60歳代の高齢層の報告が見られた。  
(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較





## 基幹定点分(月報)

### 23.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

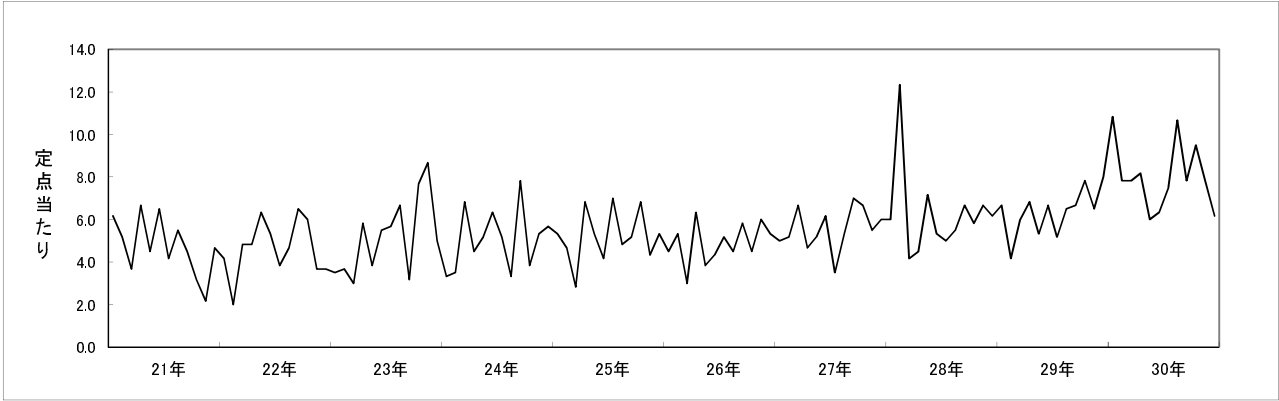


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

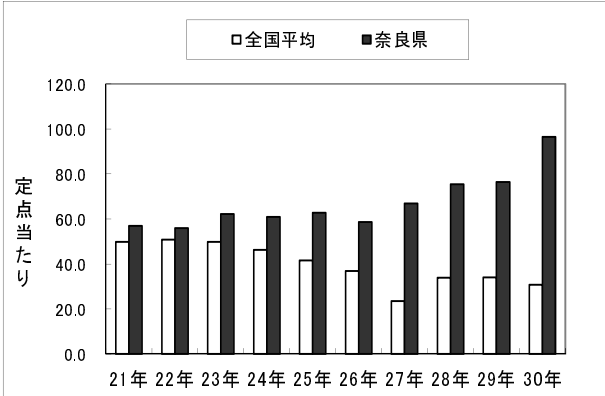


図 23-5 年齢別報告数(実数)

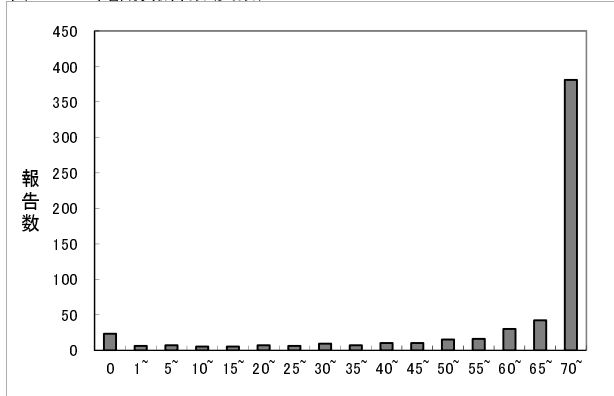
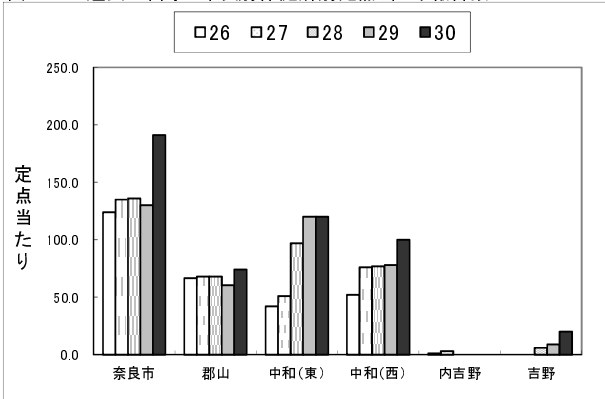


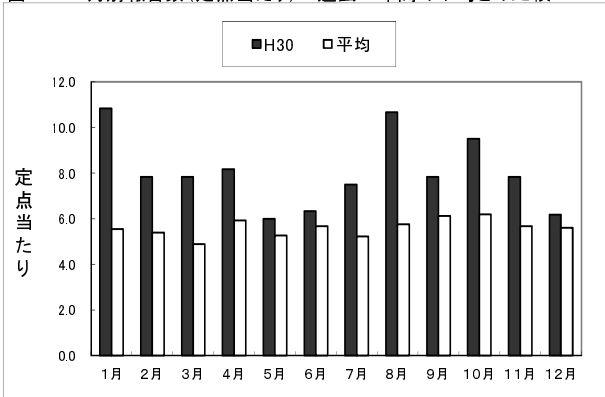
図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



#### コメント

平成30年における報告数は579例で、定点あたりの報告数は96.5であり、全国順位も3年連続ワースト1位となってしまった。全国的にはMRSA感染症の定点当たり報告数は減少傾向にあるものの、奈良県ではまだ増加傾向がみられる。報告数に季節性はみられないが、年齢別では70歳以上からの分離率が極めて高いという特徴がみられる。近年、奈良県で市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、本菌による関与も懸念される。県内医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。  
(矢野 寿一 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 24.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

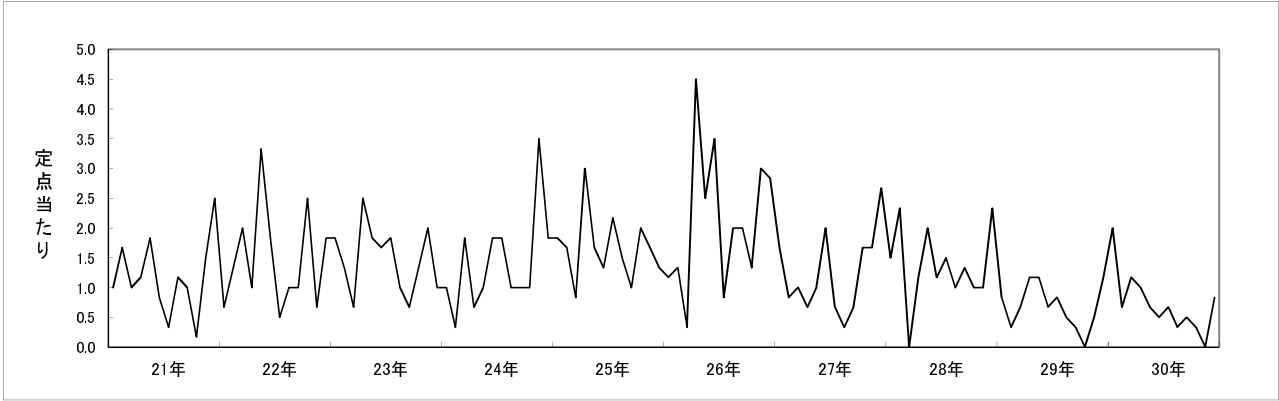


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

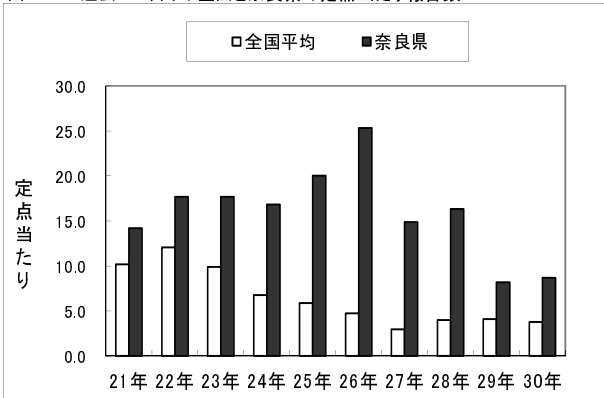


図 24-5 年齢別報告数(実数)

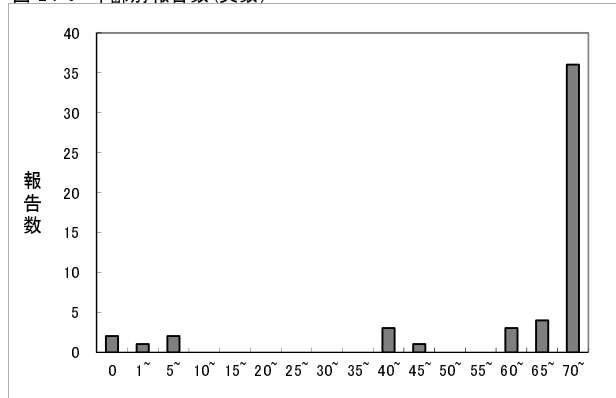
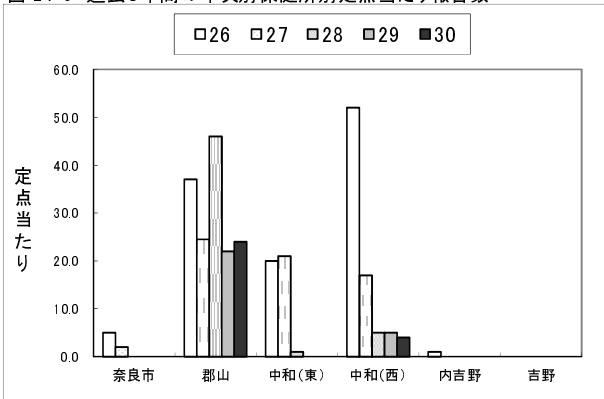


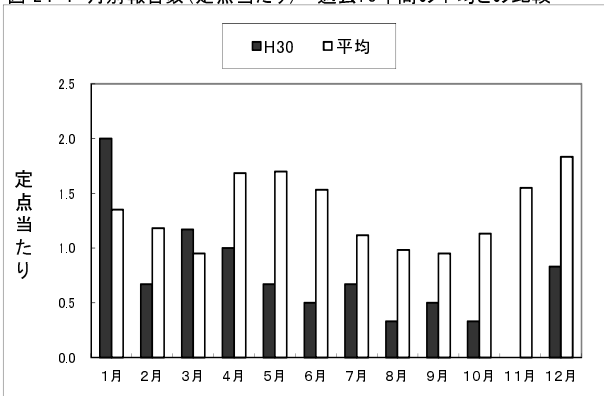
図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

平成30年における報告数は52例、定点あたりの報告数は8.67であった。平成29年の報告数49例、定点あたり報告数8.17とほぼ同様の数値であり、全国順位も昨年同様7位であったが、悪い順位で維持されている。年齢別報告数は70歳以上がほとんどを占めている。ワクチンがカバーしている肺炎球菌血清型は多くの耐性肺炎球菌が含まれており、ワクチン接種が耐性肺炎球菌分離率を下げる事が知られている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され(特に高齢者)、接種率増加を期待したい。  
(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 25.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

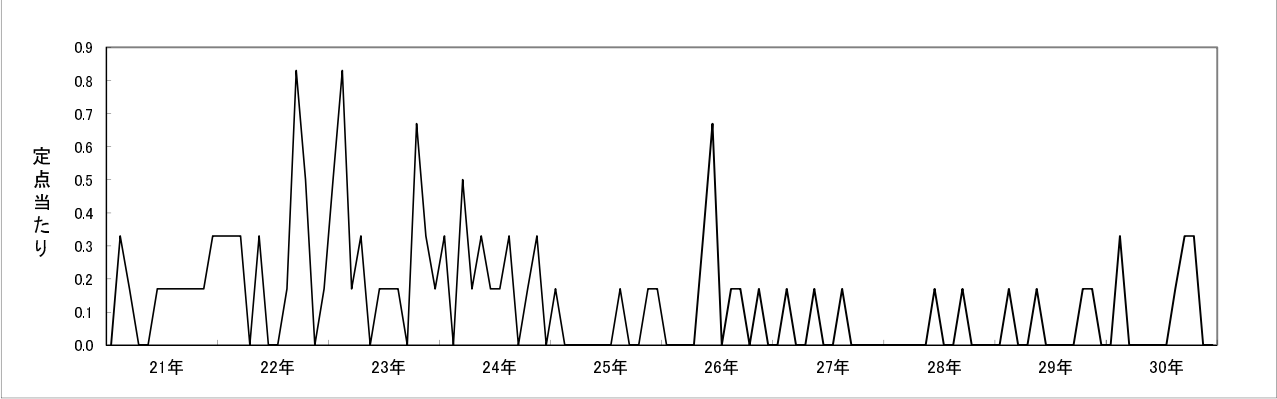


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

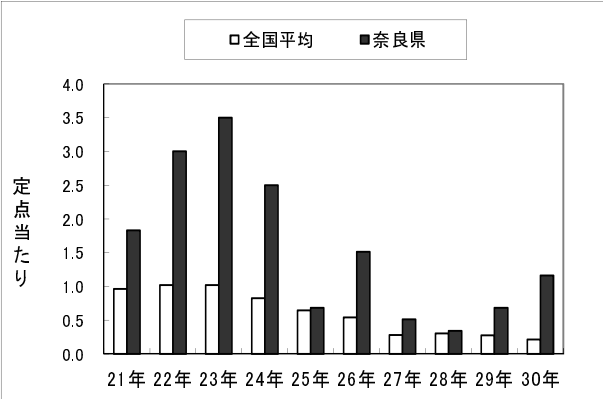


図 25-5 年齢別報告数(実数)

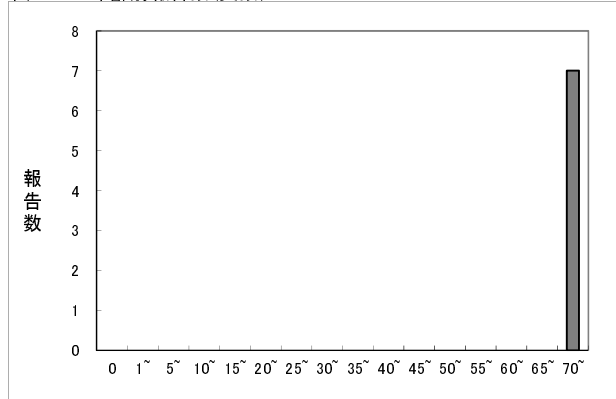
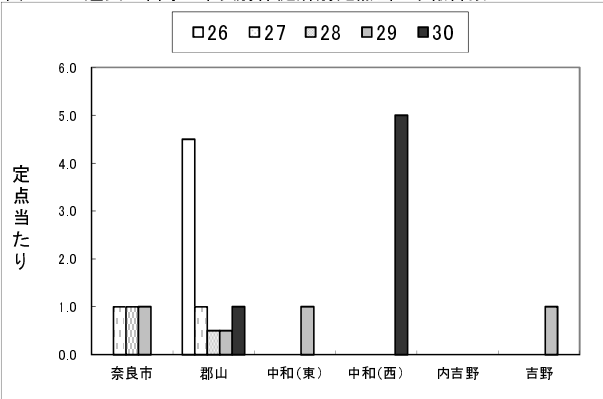


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

平成30年の全報告数は7例で、定点あたりの報告数は1.16であった。奈良県における定点当たりの報告数は23年から28年まで減少傾向にあったが、29年、30年と増加し、全国順位もMRSA同様に全国ワーストとなってしまった。各医療機関における徹底した標準予防策の遵守が強く望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

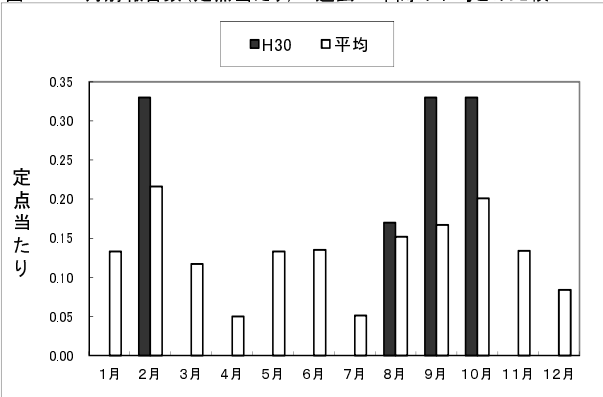


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	6,721	6,854	1,889	156	26	5	1	11	9	42	242	1,455	17,411
RSウイルス感染症	112	64	50	13	7	13	34	261	571	311	126	76	1,638
咽頭結膜熱	27	40	37	49	111	102	35	32	45	58	92	76	704
A群溶連菌咽頭炎	204	252	318	235	389	346	217	182	108	135	269	320	2,975
感染症胃腸炎	667	639	897	707	1,390	888	486	451	373	354	673	833	8,358
水痘	51	23	25	41	66	55	41	17	13	28	52	65	477
手足口病	12	12	13	10	41	79	200	163	153	183	230	78	1,174
伝染性紅斑	3	5	21	23	49	35	31	37	17	17	13	20	271
突発性発しん	44	44	66	61	74	67	67	66	64	58	73	53	737
ヘルパンギーナ	7	11	3	5	31	101	311	307	77	62	24	5	944
流行性耳下腺炎	14	3	3	6	13	12	20	10	9	9	13	14	126
計	1,141	1,093	1,433	1,150	2,171	1,698	1,442	1,526	1,430	1,215	1,565	1,540	17,404
急性出血性結膜炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
流行性角結膜炎	10	3	12	23	25	12	25	62	66	54	46	34	372
計	10	3	13	23	25	12	25	62	66	54	46	36	375
細菌性髄膜炎	0	1	3	3	3	0	0	1	0	1	1	1	14
無菌性髄膜炎	1	1	0	1	1	0	1	1	4	0	1	0	11
マイコプラズマ肺炎	3	3	6	5	1	1	3	6	7	12	13	7	67
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	6	19	14	9	1	0	0	2	0	0	0	56
計	9	11	28	23	14	2	4	8	13	13	15	8	148
性器クラミジア感染症	18	11	15	7	14	16	16	14	15	15	16	19	176
性器ヘルペスウイルス感染症	4	7	6	7	4	6	5	6	4	4	2	4	59
尖圭コンジローマ	2	3	5	7	9	3	4	3	5	3	2	3	49
淋菌感染症	6	3	3	2	4	4	5	4	4	4	3	5	47
計	30	24	29	23	31	29	30	27	28	26	23	31	331
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	65	47	47	49	36	38	45	64	47	57	47	37	579
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	12	4	7	6	4	3	4	2	3	2	0	5	52
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	2	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	7
計	77	53	54	55	40	41	49	67	52	61	47	42	638

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	124.46	126.93	34.98	2.89	0.47	0.09	0.02	0.20	0.16	0.76	4.40	26.45	321.82
RSウイルス感染症	3.29	1.88	1.47	0.38	0.21	0.38	1.00	7.68	16.79	9.15	3.71	2.24	48.18
咽頭結膜熱	0.79	1.18	1.09	1.44	3.26	3.00	1.03	0.94	1.32	1.71	2.71	2.24	20.71
A群溶連菌咽頭炎	6.00	7.41	9.35	6.91	11.44	10.18	6.38	5.35	3.18	3.97	7.91	9.41	87.50
感染症胃腸炎	19.62	18.79	26.38	20.79	40.88	26.12	14.29	13.26	10.97	10.41	19.79	24.50	245.82
水痘	1.50	0.68	0.74	1.21	1.94	1.62	1.21	0.50	0.38	0.82	1.53	1.91	14.03
手足口病	0.35	0.35	0.38	0.29	1.21	2.32	5.88	4.79	4.50	5.38	6.76	2.29	34.53
伝染性紅斑	0.09	0.15	0.62	0.68	1.44	1.03	0.91	1.09	0.50	0.50	0.38	0.59	7.97
突発性発しん	1.29	1.29	1.94	1.79	2.18	1.97	1.97	1.94	1.88	1.71	2.15	1.56	21.68
ヘルパンギーナ	0.21	0.32	0.09	0.15	0.91	2.97	9.15	9.03	2.26	1.82	0.71	0.15	27.76
流行性耳下腺炎	0.41	0.09	0.09	0.18	0.38	0.35	0.59	0.29	0.26	0.26	0.38	0.41	3.71
計	33.56	32.15	42.15	33.82	63.85	49.94	42.41	44.88	42.06	35.74	46.03	45.29	511.88
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.30
流行性角結膜炎	1.00	0.30	1.20	2.30	2.50	1.20	2.50	6.20	6.60	5.40	4.60	3.40	37.20
計	1.00	0.30	1.30	2.30	2.50	1.20	2.50	6.20	6.60	5.40	4.60	3.60	37.50
細菌性髄膜炎	0.00	0.17	0.50	0.50	0.50	0.00	0.00	0.17	0.00	0.17	0.17	0.17	2.33
無菌性髄膜炎	0.17	0.17	0.00	0.17	0.17	0.00	0.17	0.17	0.67	0.00	0.17	0.00	1.83
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.50	1.00	0.83	0.17	0.17	0.50	1.00	1.17	2.00	2.17	1.17	11.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.83	1.00	3.17	2.33	1.50	0.17	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	9.33
計	1.50	1.83	4.67	3.83	2.33	0.33	0.67	1.33	2.17	2.17	2.50	1.33	24.67
性器クラミジア感染症	1.64	1.00	1.36	0.64	1.27	1.45	1.45	1.27	1.36	1.36	1.45	1.73	16.00
性器ヘルペスウイルス感染症	0.36	0.64	0.55	0.64	0.36	0.55	0.45	0.55	0.36	0.36	0.18	0.36	5.36
尖圭コンジローマ	0.18	0.27	0.45	0.64	0.82	0.27	0.36	0.27	0.45	0.27	0.18	0.27	4.45
淋菌感染症	0.55	0.27	0.27	0.18	0.36	0.36	0.45	0.36	0.36	0.36	0.27	0.45	4.27
計	2.73	2.18	2.64	2.09	2.82	2.64	2.73	2.45	2.55	2.36	2.09	2.82	30.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10.83	7.83	7.83	8.17	6.00	6.33	7.50	10.67	7.83	9.50	7.83	6.17	96.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2.00	0.67	1.17	1.00	0.67	0.50	0.67	0.33	0.50	0.33	0.00	0.83	8.67
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.33	0.33	0.00	0.00	1.17
計	12.83	8.83	9.00	9.17	6.67	6.83	8.17	11.17	8.67	10.17	7.83	7.00	106.33

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計
インフルエンザ	41	170	615	687	849	1,163	1,260	1,281	1,140	1,041	935	2,702	835	676	811	1,081	836	678	380	230	17,411
RSウイルス感染症	170	309	615	297	147	61	19	9	3	1	1	4	0	2							1,638
咽頭結膜熱	3	44	267	109	87	63	46	32	18	11	3	12	1	8							704
A群溶連菌咽頭炎	2	17	161	251	332	397	428	389	267	220	163	260	16	72							2,975
感染症胃腸炎	75	504	1,286	965	829	816	648	517	336	280	239	639	199	1,025							8,358
水痘	6	17	40	23	21	38	75	69	61	48	24	46	7	2							477
手足口病	11	96	398	272	178	84	68	26	14	9	7	6	0	5							1,174
伝染性紅斑	0	10	11	21	26	59	54	24	25	14	9	14	0	4							271
突発性発しん	9	244	377	73	16	12	6	0	0	0	0	0	0	0							737
ヘルパンギーナ	6	76	293	212	122	79	63	33	24	15	5	11	1	4							944
流行性耳下腺炎	0	0	8	7	13	17	20	20	14	7	11	6	0	3							126
計	282	1,317	3,456	2,230	1,771	1,626	1,427	1,119	762	605	462	998	224	1,125	0	0	0	0	0	0	17,404
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0		3
流行性角結膜炎	2	4	18	10	16	7	7	12	6	6	4	10	11	36	103	41	27	31	21		372
計	2	4	18	10	16	7	7	13	6	6	4	10	11	36	103	41	29	31	21		375

年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	2	1	7	14
無菌性髄膜炎	0	0	0	1	1	1	0	3	1	1	1	0	0	0	2	11	
マイコプラズマ肺炎	1	12	29	19	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	67	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	35	12	3	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	56	
計	4	47	41	23	4	2	2	5	3	3	2	0	0	2	1	9	148
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	12	58	48	21	18	10	6	3	0	0	0	176	
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	5	8	4	8	8	12	2	3	6	1	1	59	
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	0	9	14	9	4	2	2	3	3	2	0	1	49
淋菌感染症	0	0	0	0	5	3	11	11	8	4	2	1	0	1	1	0	47
計	0	0	0	0	22	78	77	49	38	28	12	10	9	4	2	2	331
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	23	6	7	5	5	7	6	9	7	10	10	15	16	30	42	381	579
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	3	4	36	52
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
計	25	7	9	5	5	7	6	9	7	13	11	15	16	33	46	424	638

年齢別報告数(実数:10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
インフルエンザ	211.0	615.0	687.0	849.0	1,163.0	1,260.0	1,281.0	1,140.0	1,041.0	935.0	540.4	167.0	67.6	81.1	108.1	83.6	67.8	38.0	23.0
RSウイルス感染症	479.0	615.0	297.0	147.0	61.0	19.0	9.0	3.0	1.0	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	47.0	267.0	109.0	87.0	63.0	46.0	32.0	18.0	11.0	3.0	2.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	19.0	161.0	251.0	332.0	397.0	428.0	389.0	267.0	220.0	163.0	52.0	3.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	579.0	1,286.0	965.0	829.0	816.0	648.0	517.0	336.0	280.0	239.0	127.8	39.8	14.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	23.0	40.0	23.0	21.0	38.0	75.0	69.0	61.0	48.0	24.0	9.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	107.0	398.0	272.0	178.0	84.0	68.0	26.0	14.0	9.0	7.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	10.0	11.0	21.0	26.0	59.0	54.0	24.0	25.0	14.0	9.0	2.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	253.0	377.0	73.0	16.0	12.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	82.0	293.0	212.0	122.0	79.0	63.0	33.0	24.0	15.0	5.0	2.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	0.0	8.0	7.0	13.0	17.0	20.0	20.0	14.0	7.0	11.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,599.0	3,456.0	2,230.0	1,771.0	1,626.0	1,427.0	1,119.0	762.0	605.0	462.0	199.6	44.8	16.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	2.0	18.0	10.0	16.0	7.0	7.0	12.0	6.0	6.0	4.0	2.0	2.2	3.6	10.3	4.1	2.7	3.1	2.1	0.0
計	2.0	18.0	10.0	16.0	7.0	7.0	13.0	6.0	6.0	4.0	2.0	2.2	3.6	10.3	4.1	2.9	3.1	2.1	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	老齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~
インフルエンザ	211.0	914.8	788.8	167.0	85.1	42.9
RSウイルス感染症	479.0	227.8	2.0	0.0	0.0	
咽頭結膜熱	47.0	114.4	8.4	0.2	0.1	
A群溶連菌咽頭炎	19.0	313.8	144.3	3.2	1.0	
感染症胃腸炎	579.0	908.8	223.4	39.8	14.6	
水痘	23.0	39.4	27.6	1.4	0.0	
手足口病	107.0	200.0	6.9	0.0	0.1	
伝染性紅斑	10.0	34.2	9.6	0.0	0.1	
突発性発しん	253.0	96.8	0.0	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	82.0	153.8	9.8	0.2	0.1	
流行性耳下腺炎	0.0	13.0	6.4	0.0	0.0	
計	1,599.0	2,102.0	438.4	44.8	16.1	

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	30.0%	10.8%	0.5%	0.0%	0.2%
咽頭結膜熱	2.9%	5.4%	1.9%	0.4%	0.7%
A群溶連菌咽頭炎	1.2%	14.9%	32.9%	7.1%	6.4%
感染症胃腸炎	36.2%	43.2%	51.0%	88.8%	91.1%
水痘	1.4%	1.9%	6.3%	3.1%	0.2%
手足口病	6.7%	9.5%	1.6%	0.0%	0.4%
伝染性紅斑	0.6%	1.6%	2.2%	0.0%	0.4%
突発性発しん	15.8%	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%
ヘルパンギーナ	5.1%	7.3%	2.2%	0.4%	0.4%
流行性耳下腺炎	0.0%	0.6%	1.5%	0.0%	0.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



表3 疾患別・保健所別報告数

## 報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	4,296	4,131	3,153	4,507	430	894	8,427	7,660	1,324	17,411
RSウイルス感染症	251	277	458	582	1	69	528	1,040	70	1,638
咽頭結膜熱	131	121	166	266	2	18	252	432	20	704
A群溶連菌咽頭炎	528	601	275	1,404	8	159	1,129	1,679	167	2,975
感染症胃腸炎	1,632	2,029	1,871	2,528	115	183	3,661	4,399	298	8,358
水痘	152	135	109	67	3	11	287	176	14	477
手足口病	221	335	256	295	3	64	556	551	67	1,174
伝染性紅斑	65	37	107	54	0	8	102	161	8	271
突発性発しん	182	138	158	240	1	18	320	398	19	737
ヘルパンギーナ	148	224	361	138	7	66	372	499	73	944
流行性耳下腺炎	35	43	10	32	0	6	78	42	6	126
計	3,345	3,940	3,771	5,606	140	602	7,285	9,377	742	17,404
急性出血性結膜炎	0	1	0	2	0	0	1	2	0	3
流行性角結膜炎	59	60	143	110	0	0	119	253	0	372
計	59	61	143	112	0	0	120	255	0	375
細菌性髄膜炎	0	3	11	0	0	0	3	11	0	14
無菌性髄膜炎	0	1	9	0	0	1	1	9	1	11
マイコプラズマ肺炎	0	24	0	22	0	21	24	22	21	67
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	40	1	11	0	4	40	12	4	56
計	0	68	21	33	0	26	68	54	26	148
性器クラミジア感染症	24	73	14	65	0	0	97	79	0	176
性器ヘルペスウイルス感染症	9	25	0	25	0	0	34	25	0	59
尖圭コンジローマ	4	33	0	12	0	0	37	12	0	49
淋菌感染症	6	34	3	4	0	0	40	7	0	47
計	43	165	17	106	0	0	208	123	0	331
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	191	148	120	100	0	20	339	220	20	579
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	48	0	4	0	0	48	4	0	52
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	2	0	5	0	0	2	5	0	7
計	191	198	120	109	0	20	389	229	20	638

## 定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	306.86	295.07	286.64	450.70	215.00	290.58	300.96	364.76	260.40	321.82
RSウイルス感染症	27.89	30.78	65.43	97.00	1.00	34.50	29.33	80.00	23.33	48.18
咽頭結膜熱	14.56	13.44	23.71	44.33	2.00	9.00	14.00	33.23	6.67	20.71
A群溶連菌咽頭炎	58.67	66.78	39.29	234.00	8.00	79.50	62.72	129.15	55.67	87.50
感染症胃腸炎	181.33	225.44	267.29	421.33	115.00	91.50	203.39	338.38	99.33	245.82
水痘	16.89	15.00	15.57	11.17	3.00	5.50	15.94	13.54	4.67	14.03
手足口病	24.56	37.22	36.57	49.17	3.00	32.00	30.89	42.38	22.33	34.53
伝染性紅斑	7.22	4.11	15.29	9.00	0.00	4.00	5.67	12.38	2.67	7.97
突発性発しん	20.22	15.33	22.57	40.00	1.00	9.00	17.78	30.62	6.33	21.68
ヘルパンギーナ	16.44	24.89	51.57	23.00	7.00	33.00	20.67	38.38	24.33	27.76
流行性耳下腺炎	3.89	4.78	1.43	5.33	0.00	3.00	4.33	3.23	2.00	3.71
計	371.67	437.78	538.71	934.33	140.00	301.00	404.72	721.31	247.33	511.88
急性出血性結膜炎	0.00	0.33	0.00	1.00	0.00	0.00	0.17	0.50	0.00	0.30
流行性角結膜炎	19.67	20.00	71.50	55.00	0.00	0.00	19.83	63.25	0.00	37.20
計	19.67	20.33	71.50	56.00	0.00	0.00	20.00	63.75	0.00	37.50
細菌性髄膜炎	0.00	1.50	11.00	0.00	0.00	0.00	1.00	5.50	0.00	2.33
無菌性髄膜炎	0.00	0.50	9.00	0.00	0.00	1.00	0.33	4.50	1.00	1.83
マイコプラズマ肺炎	0.00	12.00	0.00	22.00	0.00	21.00	8.00	11.00	21.00	11.17
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	20.00	1.00	11.00	0.00	4.00	13.33	6.00	4.00	9.33
計	0.00	34.00	21.00	33.00	0.00	26.00	22.67	27.00	26.00	24.67
性器クラミジア感染症	8.00	24.33	7.00	21.67	0.00	0.00	16.17	15.80	0.00	16.00
性器ヘルペスウイルス感染症	3.00	8.33	0.00	8.33	0.00	0.00	5.67	5.00	0.00	5.36
尖圭コンジローマ	1.33	11.00	0.00	4.00	0.00	0.00	6.17	2.40	0.00	4.45
淋菌感染症	2.00	11.33	1.50	1.33	0.00	0.00	6.67	1.40	0.00	4.27
計	14.33	55.00	8.50	35.33	0.00	0.00	34.67	24.60	0.00	30.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	191.00	74.00	120.00	100.00	0.00	20.00	113.00	110.00	20.00	96.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	24.00	0.00	4.00	0.00	0.00	16.00	2.00	0.00	8.67
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	1.00	0.00	5.00	0.00	0.00	0.67	2.50	0.00	1.17
計	191.00	99.00	120.00	109.00	0.00	20.00	129.67	114.50	20.00	106.33